Managing Office
2-5-1, Shikata-cho, Kita-ku
Okayama 700-8558 Japan
Phone:086-235-7023 Fax:086-235-7045
http://www.chushiganpro.jp/

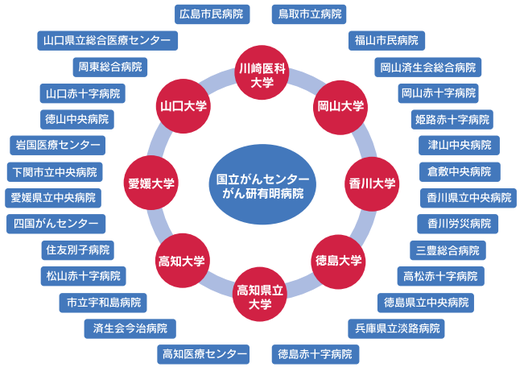
Quarterly Report

VOL.32
2011.Dec

Mid-West Japan
Cancer Professional Education Consortium
中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム

趣旨・組織

がんは、わが国の死亡率第１位の疾患ですが、がんを横断的・集学的に診療できる専門家が全国的に少なく、その養成が急務とされています。また、近年の高度化したがん医療の推進は、がん医療に習熟した医師、薬剤師、看護師、その他の医療技術者等（コメディカル）の各種専門家が参画し、チームとして機能することが何より重要です。そのため、がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医師及びがん医療に携わるコメディカルなど、がんに特化した医療人の養成を行うため、大学病院等との有機的かつ円滑な連携のもとに行われる大学院のプログラムが「がんプロフェッショナル養成プラン」です。



中国・四国全域に広がる拠点病院

組織的・効率的ながん治療の均てん化の実行組織

:コンソーシアム参加がん診療連携拠点病院

ごあいさつ

本プランは、中国・四国地域に位置する８大学が一つのコンソーシアムを作り、各大学院にメディカル、コメディカルを含む多職種のがん専門医療人養成のためのコースワークを整備し、これに地域の28のがん診療連携拠点病院が連携することにより、広い地域にムラなくがん専門医療人を送り出すことを目的としたプログラムです。

がんに関わる多職種の専門医療人が有機的に連携し、チームとしてがん診療ならびに研究にあたることができるよう職種間共通コアカリキュラムの履修を出発点として教育研修を行います。また、国内外のがんセンターと連携し指導的ながん専門医療人養成のためのファカルティ・ディベロップメント（FD）を連動させ、大学院教員の教育能力を強化します。

こうして専門的臨床能力、チーム医療や臨床研究の能力をともに身につけたがん専門医療人が数多く排出されることにより、中国・四国地域におけるがん治療の均てん化、標準化が期待されるとともに、臨床研究の活性化が期待されます。

当コンソーシアム事務局では、講演会、海外研修学生募集などの情報を広く発信することを目的としたクォータリーレポートを発行しています。

本誌をきっかけに、大学院入学や各種セミナーへの参加等をご検討いただければ幸甚に存じます。

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム
事務局

ワーキンググループ「5年間の成果と展望」

がん専門看護師コースWG

高知県立大学　藤田　佐和

がん看護専門看護師養成コースの現状と課題

Ⅰ.取り組み内容

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムにおけるがん専門看護師養成コースは、主幹校を高知県立大学（元高知女子大学）とし、岡山大学および徳島大学の3校が連携・協働して担うコースである。平成23年度からは山口大学も参画して活動を行っている。このコースは3つの活動テーマ、すなわち1. がん看護専門看護師養成、2. がん看護専門看護師の存在とそのエキスパートネスの理解促進、3. がん看護の質向上への貢献をかかげ、具体的には6つの活動を行っている。その6つとは、①各大学院のカリキュラム申請、②受験生確保、③3大学合同セミナー開催、④非常勤講師としての相互乗り入れ、⑤インテンシブコースとしての講演会の開催、⑥広報活動、である。

＜がん看護専門看護師の養成＞

高知県立大学大学院看護学研究科は、がんプロ開始前の平成11年度にすでにがん看護専門看護師教育課程認定を受けていた。岡山大学大学院保健学研究科はがんプロ活動開始後の平成20年度に、徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部は平成21年度にそれぞれ日本看護系大学協議会よりがん看護専門看護師教育課程認定を受け、がんプロ開始時に予定していた養成体制を整えることができた。さらに、がん医療・がんプロの動きを通して、平成23年度には新たに山口大学にがん看護専門看護師教育課程が設置され、平成24年度に日本看護系大学協議会の認定審査を受ける予定であり、4大学院でがん看護専門看護師養成が可能となった。受験生確保については広報活動と連動し、講演会ごとに各大学院紹介パンフレットの配布、マンスリーレポート、クォータリーレポートにがん看護専門看護師養成コースの活動内容を積極的に掲載することなどを通して広く中国・四国の広域に周知されるように努めている。

コンソーシアムの中でがん看護専門看護師を養成するに当たっては、養成コンソーシアムの共通コア科目やeラーニングなども履修するよう学生を指導している。また、チーム医療合同演習は、多大学多職種のがんプロ大学院生が参加し、緩和ケアチーム確立に向けた学習を行うものであり、がん専門看護師養成コースの学生も参加を義務づけ、共に学習を行っている。

3大学院（H23年度より4大学院）合同セミナーを年一回、がん看護専門看護師養成コースをもつ大学院の全学生と教員が参加して、徳島大学において開催している。このセミナーはがん看護専門看護師を講師として招き「がんリハビリテーション」をテーマに、講義と演習を行うものであり、学生は専門的知識と技術を習得するだけでなく、専門職者としての情報共有やネットワーク作り、相互交流の機会として活用している。またこのセミナーは教員のFDとしても機能している。さらに、3大学院の担当教員3名はお互いの大学院の非常勤講師としてがん看護専門看護師養成コースの講義を担当し、これには教員のFDという意味も含めている。

＜がん看護専門看護師の存在とそのエキスパートネス理解促進＞
＜がん看護の質向上への貢献＞

平成19年度より「がん看護専門看護師の存在とそのエキスパートネスの理解促進」をテーマにインテンシブコースとしての講演会を開催している。3大学院合同主催の講演会を2回／年、各大学院主催の講演会を3回／年のペースで開催し、平成19年度から平成23年12月現在まで通算13回の講演会を開催している（表1）。一貫してがん看護専門看護師のエキスパートネスに焦点を当て企画・運営を行っているが、2つの目標、すなわち、①がん看護専門看護師についての理解促進と②がん看護の質向上への貢献という目標を達成しようと取り組んでいる。

講演会では参加者に毎回同じアンケート内容の調査を実施（平均回収率70％程度）し、活動テーマである「がん看護専門看護師の存在とそのエキスパートネスの理解促進・がん看護の質向上への貢献」に関連して行った活動への評価を得ている。参加者は開催地の参加者が多くを占める傾向があるが、中国・四国全県にわたり（表2）広域からも参加されている。講演会のサブテーマについては、毎回の調査で意見や希望を求め、これらを参考に決定しているので、アンケートでは、ほとんどがテーマに「非常に興味があった」「まあまあ興味があった」と回答している（図1）。また、がん看護専門看護師の実践の特徴についてもほとんどが「よくわかった」「まあまあわかった」といずれの講演会においてもがん看護専門看護師の存在とそのエキスパートネスが理解できたと回答している（図2）。これらより、活動テーマのがん看護専門看護師の存在とそのエキスパートネスの理解促進、がん看護の質向上への貢献は達成されつつことがわかった。また、専門的能力をもつがん看護専門看護師を自施設でも雇用してほしいが管理者が雇用意義を認めていないため雇用が進まないという気持ちを多くの参加者が抱いていることも明らかになった。

Ⅱ.中間評価指摘事項への対応
＜外部評価による指摘事項＞

1. 化学療法や放射線治療など治療期特有の看護についての教育内容の強化

   3大学院は治療期をサブスペシャリティとして標榜はしていないが、治療期特有の看護についての教授内容を確認し、学生には養成コンソーシアムの共通コア科目やeラーニングの受講を促進し、医学的知識の習得を強化すると共に、治療期の看護介入モデルの開発などを講義内容に組み込んでいる。また、平成22年度は厚生労働省の（仮称）特定看護師試行事業に3大学院は参加し、化学療法や放射線治療を受ける患者のキュアとケアを融合した看護を実習を通して模索した。さらに、平成23年度の日本看護系大学協議会総会において、専門看護師教育課程が現行の26単位から38単位へと変更になったことを機にカリキュラムの見直しを行っている。

2. コース修了後、認定試験までの修了生のフォロー体制の設置

   岡山大学、徳島大学では、平成22年度コース修了生が今年度初めてがん看護CNS認定試験を受験することになる。がんプロ3大学院は、すでに複数の認定者を出している高知県立大学の修了生フォローアップ体制について情報共有し、各大学院では指導教員が修了生を定期的にフォローアップし、認定試験まで支援をしている。資格取得後は、がん看護CNSが不在の徳島県に第1号が誕生することになり、地域のがん看護の質向上に寄与することが期待されている。

3. インテンシブコースは緩和ケア中心であるので治療期の看護についても検討すること

   これまでの講演会のテーマ(表1)や参加者のアンケート結果を見直し、平成22年度、23年度は、がん看護専門看護師のエキスパートネスのメインテーマは変更しないが、治療過程を支える高度な看護実践に関連した、「がん手術療法の過程に焦点をあてた看護実践」「がん化学療法の過程に焦点をあてた看護実践」「がん放射線療法の過程に焦点をあてた看護実践」などのサブテーマで講演会を開催している。また参加者からは症状緩和に多くの要望があるため治療期に焦点を当てた症状緩和についての内容をサブテーマとし、ニーズに応えている。

4. がん看護CNS育成において海外研修のFDプログラムを利用した看護職の活用

   がん看護CNSコースの教育を担っている教員や実習病院のがん看護CNSが海外研修に積極的に参加し、CNS育成に貢献することは重要なことである。しかし、FD企画への参加を努力はしているが、日程的に参加困難であり、現状では指導者のFDは不十分である。また、FDプログラム参加者の報告会は開催しても、研修内容を教育にフィードバックして頂く機会を設けておらず、今後の課題である。

Ⅲ.3年間（H19～21）の自己評価による課題への対応

3年間の活動内容を自己評価し、①これまでの活動評価、②看護管理職者への広報活動、③講演会参加者所属施設看護管理者のがん看護専門看護師に関する意識調査、④受験生の確保、が課題であると考えた。そこで、これまで行ってきた具体的活動を継続しつつ、以下の対応を行っている。

【対応】　平成22年度、23年度は新たな活動として以下のテーマで研究的取り組みを行い、活動評価と今後の課題を明らかにし、次のステージに向かう予定である。

テーマ①：がん看護専門看護師の存在とそのエキスパートネスの理解及びがん看護の質向上に関する実態調査
～中国・四国地域に限定して～

テーマ②：中国・四国地域におけるがん看護専門看護師教育課程進学を阻害する要因

テーマ③：看護部門責任者を対象としたがん看護専門看護師に関する実態調査　～中国・四国地域に限定して～

Ⅳ. 成果

本コースは、がん看護専門看護師養成、がん看護専門看護師の存在とそのエキスパートネスの理解促進、がん看護の質向上への貢献を活動テーマとして取り組んでいる。

1. がん看護専門看護師養成

中国四国広域コンソーシアムを基盤とし、4大学院でのがん看護CNSの養成が行えるよう教育課程が整備されたことは、中国四国の看護職にとって進学の機会を増やし、チーム医療を推進していくがん看護CNSの地域への貢献が期待できる体制が整えられたと考える。また、教育課程の実習においては、各大学院ともコンソーシアム内の実習病院（がん診療連携拠点病院）との連携強化を図り、教育においても他職種との連携ネットワークが拡がり、教育内容が強化された。教員間の連携も強化され、それぞれの大学院の強みを活かして教授することができており、優秀な人材を輩出していく土台作りができたといえる。養成人数に関しては、今年度の認定試験の結果を待ちたい。

2. がん看護専門看護師の存在とそのエキスパートネスの理解促進

平成19年度は、中国四国のコンソーシアム内にはがん看護CNSが7名で全国的にも少なかったが、平成23年11月現在14名となった。当初は、専門看護師について、同職種にも多職種にもCNSの存在や役割機能、実践にもたらす変化などはほとんど認知、理解されていなかった。しかし、インテンシブコースの講演会、広報活動等を通して、アンケート結果にもあるように存在意義や専門性、活動内容は理解されてきており、着実に成果を上げている。しかし、看護管理者の参加は少なく、雇用者や管理者の理解が促進されているか定かでない。がん看護の質向上への貢献のためにも、看護管理者のがん看護専門看護師への理解を促していく必要がある。

3. がん看護の質向上への貢献

がん看護CNSが所属する施設の増加は、中国四国のがん医療、がん看護の質向上に直結すると思われる。しかしCNSの所属するがん診療連携拠点病院は限られており、これまで培った取り組みを継続していかなければならない。インテンシブコースは毎回、盛況であり、休日の午後の開催にもかかわらずこれまで中国四国の176施設からの参加を頂いている。経年的に参加施設、参加人数は増加し、質的にも満足度が高いことがアンケート結果からわかる。また、講演会への参加が大学院や認定看護師コースへの進学の動機づけとなり、スペシャリストをめざす者が現れてきている。このように臨床現場は徐々にではあるが変化し、がん看護の質向上がもたらされてきていると考えられる。

Ⅴ. 今後の課題

1. がん看護専門看護師養成コースWGは、中国四国広域コンソーシアムを基盤とし、より豊かな教育を展開することをめざしてコンソーシアム外の他のがん看護CNSコースとの連携も検討する。
2. がん看護CNS教育課程38単位への移行について、コンソーシアム内の資源を活用することや新たな資源の開発を行うと共に、教員の教育力向上をめざして、相互に研鑽をしていく。
3. eラーニング等を活用して、積極的に病態生学や臨床薬理学、フィジカルアセスメントの知識・技術を習得し、チーム医療を推進できるがん看護CNSの育成をめざす。
4. 受験生の確保に関する活動の継続とコース修了後のフォロー体制を整備し、中国四国のがん看護CNSの均てん化を図り優秀な人材を輩出することをめざす。また、修了生による養成コース支援についても検討する。
5. 自己評価による研究的取り組みのa.中国・四国地域におけるがん看護専門看護師教育課程進学を阻害する要因、b.看護部門責任者のがん看護専門看護師に対する意識についての調査結果を分析し、看護職が安心して学べる支援体制、臨床現場に戻って有効活用される方策や雇用促進への方策を検討する。
6. がん専門看護師養成WGが企画したインテンシブコースが参加者のがん看護実践の質の向上に繋がったかどうかを明らかにし、新たな取り組みの必要性を検討する。

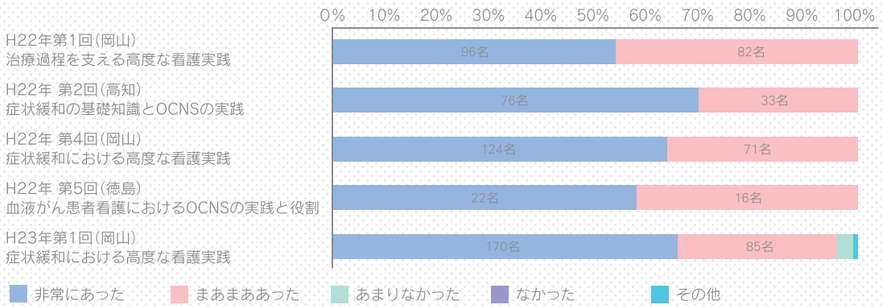
表1　中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムがん看護専門看護師養成コースが主催した講演会と参加者数

年度：回	開催日・場所	メインテーマ	講演者（所属）	参加者数
19年度 第1回	H20年3月2日（日） 於：岡山コンベンションセンター	がん看護CNSのエキスパートネスと がん医療の質の向上への貢献	廣瀬 千也子氏（日本看護協会常任理事） 小迫 富美恵氏（横浜市立市民病院がん看護CNS） 山田 佐登美氏（岡山大学病院看護部長） 藤田　佐和氏（高知女子大学大学院看護学研究科教授）	158名
20年度 第1回	H20年7月27日（日） 於：徳島東急イン	がん看護CNSのエキスパートネスと その活動の実際	豊田　邦江氏（細木病院緩和ケア病棟師長・がん看護CNS） 田中　登美氏（近大姫路大学看護学部、がん看護CNS） 宮井　千恵氏（高知大学医学部附属病院副院長・看護部長）	112名
第2回	H20年9月20日（土） 於：高知女子大学	がん化学療法における高度な看護実践をめざして	辻　晃仁氏（高知医療センター腫瘍内科医長） 角野　美佳氏（三田市民病院がん看護CNS）	141名
第3回	H20年11月29日（土） 於：岡山大学	がん看護における緩和ケア	田村　恵子氏（淀川キリスト教病院ホスピス主任看護課長・がん看護CNS）	329名
第4回	H20年12月7日（日） 於：岡山コンベンションセンター	チーム医療におけるがん看護CNSの エキスパートネス	小笠原 利枝氏（横浜市立みなと赤十字病院がん看護CNS） 栗原　幸江氏（静岡県立静岡がんセンター緩和医療科　心理療法士） 小島　昌徳氏（横浜市立市民病院薬剤部　がん薬物療法認定薬剤師） 北村　宗生氏（仁生会　細木病院副院長　外科・緩和ケア医師）	143名
第5回	H21年1月25日（日） 於：徳島大学	最新の疼痛マネジメントの実際とがん看護CNSの果たす役割 ～がん化学療法を受けている患者を中心に～	田墨　恵子氏（大阪大学医学部附属病院 オンコロジーセンター看護師長・がん看護CNS）	98名
21年度 第1回	H21年7月19日（日） 於：岡山コンベンションセンター	がん看護CNSのエキスパートネスと サブスペシャリティ	池田　久乃氏（高知医療センター・がん看護CNS） 北川　善子氏（岡山大学病院・がん看護CNS） 吉田　智美氏（滋賀県立成人病センター・がん看護CNS）	143名
第2回	H21年9月5日（土） 於：高知女子大学	がん放射線療法における高度な 看護実践をめざして	森田　荘次郎氏（高知医療センター・がんセンター長） 祖父江由紀子氏（東邦大学医療センター大森病院・がん看護専門看護師）	94名
第3回	H21年10月24日（土） 於：岡山大学	緩和ケアにおける看護師の役割	小迫 富美恵氏（横浜市立市民病院・がん看護CNS）	175名
第4回	H21年11月15日（日） 於：香川県 県民ホール	がん看護CNSのエキスパートネスと役割機能	小山 富美子氏（近畿大学医学部附属病院・がん看護CNS） 菊内　由貴氏（四国がんセンター・がん看護CNS） 近藤 まゆみ氏（北里大学病院・がん看護CNS）	102名
第5回	H22年1月10日（日） 於：徳島大学	化学療法を受けるがん患者に対する 口腔ケアの実際とがん看護CNSの役割	遠藤　久美氏（静岡県立静岡がんセンター・がん看護CNS）	83名
22年度 第1回	H22年7月19日（月） 於：岡山コンベンションセンター	がん看護CNSのエキスパートネス： 治療過程を支える高度な看護実践	松原　康美氏（北里東病院・がん看護CNS） 矢ケ崎　香氏（慶応義塾大学　がん看護CNS） 大村　知美氏（山口県立総合医療センター・がん看護CNS）	193名
第2回	22年9月4日（土） 於：高知女子大学	症状緩和の基礎知識とがん看護CNSの実践	高橋 美賀子氏（聖路加国際病院・がん看護CNS）	129名
第3回	H22年10月9日（土） 於：岡山大学	がん患者の退院調整におけるCNSの役割	菊内　由貴氏（四国がんセンター・がん看護CNS）	70名
第4回	H22年11月23日（祝） 於：岡山コンベンションセンター	がん看護CNSのエキスパートネス： 症状緩和における高度な看護実践	千﨑 美登子氏（北里大学病院・がん看護CNS） 大塚 奈央子氏（姫路医療センター・がん看護CNS） 上杉　和美氏（松山ベテル病院・がん看護CNS）	273名
第5回	H23年1月22日（土） 於：徳島大学	血液がん患者看護におけるがん看護CNSの 実践とその役割	坪井　香氏（神奈川県立がんセンター・がん看護CNS）	51名
23年度 第1回	H23年7月23日（土） 於：岡山コンベンションセンター	がん看護CNSのエキスパートネス： 症状緩和における高度な看護実践	伊藤 由美子氏（兵庫県立がんセンター・がん看護CNS） 北添 可奈子氏（高知医療センター・がん看護CNS） 武田　千津氏（愛媛県立中央病院・がん看護CNS）	355名
第2回	H23年12月18日（日） 於：岡山コンベンションセンター	がん看護CNSのエキスパートネス： CNSと管理者との協働による質の高い 看護実践の創造	平田　佳子氏（倉敷中央病院　がん看護CNS） 近藤　恵子氏（九州厚生年金病院　がん看護CNS） 小迫 富美恵氏（横浜市立市民病院　がん看護CNS） 黒瀬　正子氏（倉敷中央病院　看護部長）	

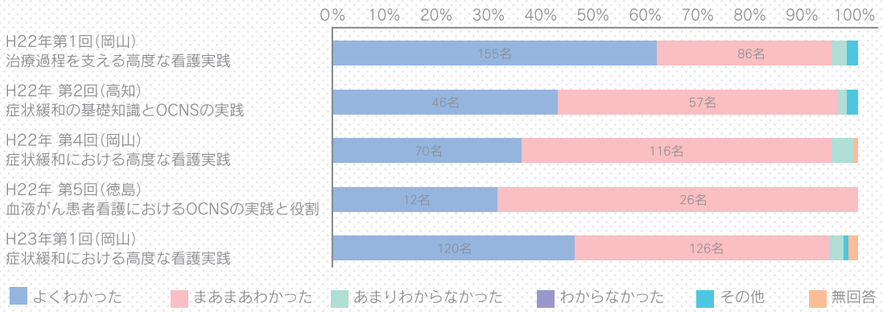
表2　講演会終了後のアンケート結果（参加者の勤務地）

	合計人数	岡山	高知	愛媛	香川	徳島	山口	広島	福岡	鳥取	その他
H22年第1回（岡山） 治療過程を支える高度な看護実践	178名	100	10	14	21	8	19	4	1	1	0
H22年第2回（高知） 症状緩和の基礎知識とOCNSの実践	106名	19	48	10	12	15	0	1	1	0	0
H22年第4回（岡山11月） 症状緩和における高度な看護実践	195名	112	25	18	14	5	15	2	0	0	4
H22年第5回（徳島） 血液がん患者看護におけるOCNSの実践と役割	38名	4	2	0	3	28	0	1	0	0	0
H23年第1回（岡山7月） 症状緩和における高度な看護実践	259名	80	25	27	28	13	25	50	0	3	8

◆テーマへの興味・関心（図1）



◆がん看護専門看護師の高度な実践についての理解（図2）



がん専門薬剤師コースWG

徳島大学　土屋　浩一郎

＜取組内容＞

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム（以下、中四がんプロ）のがん専門薬剤師コースは、岡山大学、高知大学、徳島大学の3大学でスタートを切り、平成22年度に愛媛大学が参加して現在4大学が参加している。

がん専門薬剤師養成コースは、がんに関連する知識及び技能を体系的に学ぶことにより、日々進歩するがん薬物療法に対する高度な知識を持った薬剤師の養成、およびがん医療に携わる指導的薬剤師の養成、さらには「がん専門薬剤師」等の専門薬剤師の資格取得へのサポートを掲げ、取り組んできた。カリキュラムは臨床におけるがん治療に、薬剤師として必要な知識と技能を習得できるような講義と実習を含み、さらに社会人が受講しやすいよう大学間での単位互換制度およびeラーニングを積極的に取り入れている。

募集人員は若干名（高知・徳島各2名、岡山6名）とし、修士コースと博士コースの2コースを設置してスタートした。平成24年度より薬剤師免許の取得は6年制教育を受けた学生に限られ、4年卒で薬剤師免許を取得した薬剤師のための修士コースは必要ないと言う議論もあったが、中四がんプロ・薬剤師コースではこれまでに薬剤師免許を有している4年卒の社会人薬剤師にも門戸を広く開放することを目指し、修士コースと博士コースの2コースを設置している（現在は博士課程のみ設置）。

本コースは大学院に設置されているので、がん関連の研究および学位の取得にも積極的に取り組んでいる。

＜中間評価への対応＞

1. 連携大学・病院の連携体制や指導者の相互乗り入れ等の強化を図ること

中四がんプロにおけるがん専門薬剤師養成コースはがん薬物治療の講義および大学院での研究も重視していることから、コンソーシアムの地域における薬学部を有する6年制薬学部および薬科大学との連携が、今後のがん専門薬剤師コースへの入学者の発掘および啓蒙に重要と考えている。

これまでは本コンソーシアムに参加していない薬学部に対して出張講義の形で中四がんプロ・がん専門薬剤師養成コースの紹介を行なってきたが、今後は機会を捉え、積極的に協力体制を構築していきたいと考えている。

＜成果＞

現在まで送り出した修了者は大学病院、一般病院、行政職に就いている。また、大学院でのがん研究を通じて抗がん剤に関する特許申請（特願2010-270797）を行った。FDについても積極的に取り入れ、米国、カナダ、シンガポール、英国および国内のがん医療先進施設へ薬剤師を派遣した。また、薬剤師を対象としたがん関連の講演会を主催した。

＜今後の展望、他＞

1. 薬学部6年制と大学院

平成22年度と平成23年度は薬学部における薬剤師養成期間が4年から6年に移り変わる変革期にあたったため、薬学部からの卒業生が生まれず、その間、がん専門薬剤師養成コースに入学する学生は一時的に途絶することとなった。また、薬学部の4年制から6年制に移行するのに合わせて修士課程が廃止されたことから、中四がんプロのがん専門薬剤師コースは博士課程のみのコースとなった。

そこで薬学部を有する岡山大学と徳島大学では大学院の改組に合わせ、再度カリキュラムの見直しを行い、平成24年度からのコース生の受け入れに向けて準備を整えた。今後はこの新制度の大学院のアピールを通じ、6年制薬学部卒業生のみならず社会人大学院生の確保を進めたい。

2. がん専門薬剤師の認定基準への対応

平成21年度にがん専門薬剤師の認定を行う団体が日本医療薬学会に変更されたことに伴い、がん専門薬剤師の認定基準も変更となった。この変更に伴い、がん専門薬剤師は臨床能力を重視することとなったが、中四がんプロのがん専門薬剤師コースはがん関連知識の習得と研究マインド醸成、および学会発表・論文作成指導に重点を置き、将来にわたる「がん専門薬剤師」取得のための基礎学力をつけることに注力したいと考えている。

ところで、6年制薬学部学生に対するアンケート結果では、がん専門薬剤師を含む専門薬剤師の取得の意欲が高いが、大学における「がん専門薬剤師コース」の修了が「がん専門薬剤師」や「がん薬物療法認定薬剤師」取得に直結しないという問題があり、一層の環境整備が課題と思われる。

がん専門栄養士コースWG

徳島大学　代謝栄養学分野　中屋　豊
臨床栄養学分野　竹谷　豊
代謝栄養学分野　阪上　浩

1. 設置の背景と目的

化学療法、放射線療法、外科療法など高度化・多様化するがん治療を効果的に進めるとともに患者のQOLを良好に保つためには適切な栄養管理が必要である。このため、がん医療チームにはこのようながん患者特有の病態や治療法を理解し、かつ個々のがん患者の特性を把握し適切な栄養管理ができる管理栄養士が求められている。さらに管理栄養士には、健常者やがん生存者ががんの発症・再発を予防するための食事や生活習慣に関する指導、緩和ケア時のQOL向上のための栄養管理も求められる。中国・四国広域がんプロフェッショナル養成プログラムでは、全国で唯一の医学部にある管理栄養士養成課程をもつ徳島大学に医師・薬剤師・看護師・医学物理士と共にがん医療チームの一翼を担うことのできる管理栄養士を養成するための「がん専門栄養士コース」を全国に先駆けて設置することとなった。

2. がん専門栄養士コースの概要および実績

(1) 位置付けと組織

がん専門栄養士コースは、当がんプロ養成プログラムにおいて、コメディカル養成コースの1つとして位置付けられている。がん専門栄養士コースは徳島大学大学院栄養生命科学教育部人間栄養科学専攻内に腫瘍栄養学専門コースとして設置された。がん専門栄養士コースは、大学院博士後期課程の専攻課程であり、標準修業年限は3年、修了すると博士（栄養学）の学位を取得できる。

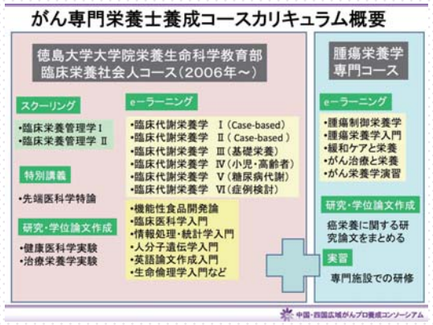
(2) 受け入れ対象と人数

がん専門栄養士コースでは、主に社会人大学院生を受け入れ対象とし、管理栄養士かつ修士の学位を有することあるいは同等の臨床経験を有するものを入学対象とする。年間の受け入れ予定大学院生数は2名である。

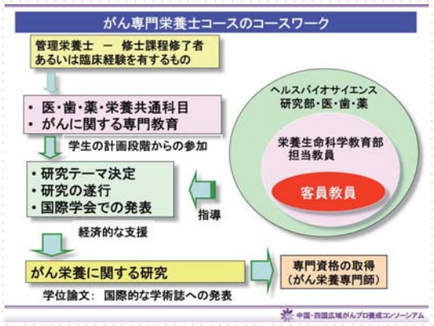
(3) カリキュラム

がん専門栄養士コースは、がん栄養に関する教育に加え、がん治療法の進歩に併せて新たな栄養管理法を研究・開発できる人材を育成するために博士後期課程のプログラムとして設置されている。カリキュラムでは、臨床栄養学の基本カリキュラムに加え、がんプロ共通コアカリキュラムとがん専門栄養士コースの専門科目からなる教育プログラムとした（図1）。これらの科目は、臨床栄養社会人コースと同様に、e-learningとスクーリングにより履修が可能であり、現在までにすべての科目が履修できる体制が構築できている。実習などは、徳島大学病院のNST、キャンサーボードおよび各所属先の病院で実施できるようにしている。これらの実習によりチーム医療の一翼を担う管理栄養士として他職種との連携や医療スタッフとしての資質を向上させることができる。さらに、博士後期課程であるので博士の学位を取得するための研究と論文作成が求められる（図2）。

【図1】



【図2】



3. FDプログラムの実施

がん専門栄養士の養成にあたるスタッフを育成するために、先進的ながん栄養管理を実施している国内外の施設で研修を受ける機会を設けた。

・平成19年12月19日～21日　参加者：中屋　豊
　研修場所：Peter MacCallum Cancer Center, Melbourne, Australia
・平成20年2月18日～19日　参加者：中屋　豊、竹谷　豊
　研修場所：University of California San Diego Medical Center, Thornton Hospital, San Diego, CA, USA
・平成21年2月5日～6日　参加者：中屋　豊
　研修場所：University of Texas MD Anderson Cancer Center, San Antonio, TX, USA

また、海外のがん専門栄養士を招聘し、学内での講演会、研修会を開催した。

・平成20年3月17日～19日　研修場所：徳島大学
　講師：Nicole Kiss、Senior Clinician, Nutrition Department,
　　Peter MacCallum Cancer Center, Melbourne, Australia

4. 講演会、オープンカレッジなどの開催

社会人大学院生のスクーリング、がん診療に関わる管理栄養士やその他の医療スタッフにがん栄養に関する知識を普及するために各種研究、講演会、オープンカレッジを開催した（表1）。受講者は、全国から多数参加しており、この分野の潜在的なニーズが高いことを示している。また、一般住民に対してがん治療時の栄養管理やがん予防のための食事についての講演会も開催し、知識の普及に務めている。今後も、これらの活動を通じて管理栄養士の一層の資質向上に貢献するとともに一般住民に対する啓蒙活動を続けていく予定である。

【表1】開催した講演会・セミナーなど

平成20年1月26日	がん栄養治療研究会　（岡山）
平成20年3月17～18日	がん栄養治療講習会in徳島　（徳島）
平成20年7月26～27日	オープンカレッジ　（徳島）
平成21年2月15日	公開シンポジウム「がんと栄養」 第238回徳島医学会学術集会　（徳島）
平成22年7月17～18日	オープンカレッジ「がん栄養学I」（徳島）
平成23年7月23～24日	オープンカレッジ「がん栄養学II」（徳島）

5. 専門資格制度の確立

本がんプロでの大きな成果の1つとして、「がん栄養専門師」の資格制度ができたことがある。現在、日本病態栄養学会において「がん栄養専門師」認定のための、準備が進められており。平成24年度には第1回の認定試験が実施できる見込みである。

6. 中間評価での指摘事項に対する対応

e-learning受講者の習熟度が教員側で十分把握できていないのではないかという指摘があったが、1回の講義毎に提出するレポートで習熟度を把握するようにしている。また、より多くの管理栄養士が当プログラムの教育を受けることができるような環境を整備すべきとの指摘に対しては、現在の博士後期課程での履修に加え、博士前期課程からも履修できるようなプログラムを準備している所である。

7. 今後の展望

既に、がん専門栄養士コースのプログラムを修了した者が輩出しており、本プログラムでの教育は順調に進んでいる。今後は、日本病態栄養学会と連携しながら「がん栄養専門師」の誕生に向けて取り組んでいきたい。特に、本プログラムを修了した者については、がん栄養専門師の資格に必要な知識や技術を修得しており、今後、がん栄養専門師の資格を取得し、がん医療の現場において活躍されることを期待している。がん栄養専門師制度の確立は、中国・四国広域がんプロフェッショナル養成プログラムから得られた大きな成果の1つである。本がんプロにおいて養成されたがん栄養専門師が全国に広がり、がん患者の栄養管理について実践・研究を重ね、治療効果や患者のQOLの向上に貢献できることを願う。

がん治療生涯教育WG

川崎医科大学　山口　佳之

インテンシブコースは、がん診療の専門資格を目指す大学院生はもちろん、すでに専門資格取得後のがん診療従事者に対し、継続的かつ生涯的な高度学習を提供するプログラムである。同時に、専門資格取得後のがん診療従事者に対し、知識・技能復活プログラムとしてもカリキュラムされたコースである。平成22年度の活動は以下のごとくである。

愛媛大学では2カ月に1回の頻度で40人～100人の参加のもと、抗がん剤化学療法、コミュニケーションスキル、連携パス、サイコオンコロジーの講演会や講習会が開催された。高知大学では年4回のペースで14人～51人の参加のもと、地域緩和ケアネットワークの構築や、がんの診断、外科治療、統計解析などの講演会が開催された。山口大学では2カ月に1回以上のペースで23人～59人の参加のもと、精神的ケアや、FD研修会、NSTなどの講演会や講習会が開催された。川崎医科大学では医師向けのCancer Seminar、看護師支援となるOncology Seminarとして、それぞれ年2回、地域連携やがんの診断学、各種ガイドライン、療養の支援などの講演会が開催された。いずれの企画も、中間評価で指摘された、1.連携大学・病院の連携体制や指導者の相互乗り入れ等の強化を図ること、2.放射線療法、化学療法の専門特化した講座の設置、に関わるテーマと評価でき、得られた成果は大きい。

平成23年度も引き続き、各施設において活発な学習プログラムが企画されており、最終年度として、見える成果が期待される。

年度	開催日時	出席者数	講 演 内 容	大学名
19	11月 9日	62	がん専門医についての現状と将来	愛媛大学
	1月17日	65	がん看護専門看護師の活動の実際と将来展望	愛媛大学
	1月19日	125	第2回 Cancer Seminar　合同講演会　テーマ:「がんの放射線診断・治療の最前線」	川崎医科大学
	2月19日	約50	がん診療施設の機能評価	愛媛大学
	3月28日	58	がん疼痛の系統的治療	愛媛大学
	3月29日	38	「消化器がん治療の進歩」	川崎医科大学
20	5月21日	67	「がんプロフェッショナル養成プランにおけるFD研修」	山口大学
	5月23日	81	サイコオンコロジーの臨床実践	愛媛大学
	6月11日	67	テーマ:「在宅ホスピスを考える」	高知大学
	6月27日	119	「癌治療における集学的アプローチ:米国診療の実際」	川崎医科大学
	7月12日	184	第3回 Cancer Seminar　合同講演会　テーマ:「患者の視線に立ったチーム医療を目指して」	川崎医科大学
	9月20日	約220	がんになっても安心して暮らせる街づくりを目指して	愛媛大学
	9月27日	140	第1回 Oncology Seminar 合同講演会	川崎医科大学
	11月 5日	56	がん患者の栄養管理	愛媛大学
	1月17日	100	第4回 Cancer Seminar　合同講演会　テーマ:「がんの早期診断とそのマネジメント、現況と将来展望」	川崎医科大学
	1月30日	61	当院における膵臓癌に対する集学的治療と地域医療連携室の取り組み	高知大学
	1月30日	54	「がんと漢方」「在宅緩和ケア」	山口大学
	2月 4日	75	「がん治療におけるオーラルケア」「がん看護におけるオーラルケア」	山口大学
	2月16日	約100	がんプロ海外研修報告会	愛媛大学
	2月19日	96	「緩和ケアにおける症状コントロール」	山口大学
	2月23日	73	進行食道癌における化学放射線療法と緩和ケアの諸問題	高知大学
	2月27日	36	「緩和ケアチーム研修会報告」	山口大学
	3月 6日	87	「がん患者の心理」	山口大学
	3月 7日	75	「進行期がん病態と緩和ケア」	川崎医科大学
	3月16日	56	「がん治療、がん看護におけるリンパ浮腫に対するケア」	山口大学
	3月27日	33	集学的治療を行った上行結腸癌の一例	高知大学
21	4月18日	約100	がんサロンあいほっと記念講演会「医療の舟歌-患者さんと医療者との間に架ける橋」「心を通じる対話」	愛媛大学
	5月23日	117	第2回 Oncology Seminar 合同講演会	川崎医科大学
	5月27日	191	「摂食嚥下障害とQOL」	山口大学
	6月 3日	58	「国内がんセンター研修報告」	山口大学
	6月 8日	27	「FD研修報告」	山口大学
	6月12日	60	「がんの放射線療法」	山口大学
	7月 7日	95	「コミュニケーションスキル」	山口大学
	7月10日	119	小児がんのトータルケアを実践して	愛媛大学
	7月11日	170	第5回 Cancer Seminar　合同講演会　テーマ:「がんの緩和ケア」	川崎医科大学
	7月19日	150	第1回 講演会「がん看護専門看護師のエキスパートネスとサブスペシャリティ」	高知女子大学
	7月24日	61	「小児がんの治療」	山口大学
	9月 5日	94	第2回 講演会「がん放射線療法における高度な看護実践をめざして」	高知女子大学
	9月 8日	77	「がん緩和治療」	山口大学
	9月11日	92	「終末期患者の看護」	山口大学
	9月18日	35	「家族看護」	山口大学
	10月 6日	40	チーム医療その担い手と役割	愛媛大学
	10月24日	172	第3回 講演会「がん緩和ケアにおける看護師の役割」	高知女子大学
	10月30日	59	「外来化学療法とチーム医療」	山口大学
	11月 6日	42	分子標的薬の最新情報	愛媛大学
	11月 6日	59	「がん患者の心理と看護」	山口大学
	11月15日	102	第4回 講演会「がん看護専門看護師のエキスパートネスと役割機能」	高知女子大学
	12月18日	82	頚部痛を主訴に入院となった肺癌の多発骨転移の症例　～各科治療方針、病棟管理、FUS治療～	高知大学
	12月20日	600	～ここまで進んだ高知県のがん治療　Part2～	高知大学
	1月10日		第5回 講演会「化学療法を受ける患者に対する口腔ケアの実際とがん看護専門看護師の役割」	高知女子大学
	1月16日	74	第6回 Cancer Seminar　合同講演会　テーマ:「がん分子標的治療の理論と実際ー免疫療法を含む」	川崎医科大学
	2月27日	65	第3回 Oncology Seminar 合同講演会　テーマ:「がんの薬物療法」	川崎医科大学
	3月20日	32	「がん治療の最前線」	川崎医科大学
22	4月17日	50	高知在宅緩和ケア研究会　一般演題『地域密着型サービスにおける看取り』	高知大学
	6月21日	35	「精神的ケア」セミナー	山口大学
	6月26日	100	「悪性リンパ腫の放射線治療経験」	愛媛大学
	6月26日	102	第7回 Cancer Seminar　合同講演会　テーマ:「地域連携」	川崎医科大学
	7月 5日	23	「海外FD研修報告会」	山口大学
	7月16日	50	「抗悪性腫瘍薬治療法の安全管理対策」	愛媛大学
	7月29日	37	消化器がん手術内視鏡セミナー	高知大学
	9月 6日	44	「緩和ケア」セミナー	山口大学
	9月11日	104	第4回 Oncology Seminar合同講演会　テーマ:「がんの診断学」	川崎医科大学
	10月18日	55	「ターミナルケア」セミナー	山口大学
	10月24日	40	「あなたが、がんと言われた時、がんを告げる時に」	愛媛大学
	10月28日	39	「緩和ケアスペシャル」セミナーテーマ:「理想的な緩和ケアチームとは？」	山口大学
	11月11日	41	「緩和ケア」セミナー　テーマ:「在宅緩和ケア」「事例を通して在宅緩和ケア連携を考える」	山口大学
	12月 1日	14	「産科超音波検査」「婦人科における内視鏡下手術」「女性における腹膜癌、卵巣癌の診断と治療」	高知大学
	12月16日	59	「NST」セミナー　テーマ:「がん患者におけるNSTのかかわり」	山口大学
	1月18日		第15回 愛媛大学腫瘍センター講演会	愛媛大学
	2月10日	58	「がん医療における心のケア～緩和ケアとサイコオンコロジー～」	愛媛大学
	3月10日	50	「乳がん薬物療法の最新情報」	愛媛大学
	3月10日	51	「根拠に基づく診療における統計学的結果の解釈―具体的な事例とともに―」	高知大学
	3月12日	62	第8回 Cancer Seminar　合同講演会　テーマ:「がん治療～各領域のガイドラインと最近の話題～」	川崎医科大学
	3月26日	42	第5回 Oncology Seminar 合同講演会　テーマ:「がん患者の療養生活を支援する」	川崎医科大学
23	6月10日	73	「海外FD研修報告会」	山口大学
	6月11日	67	第9回 Cancer Seminar　合同講演会　テーマ:「女性と癌」	川崎医科大学
	7月 7日	41	「コミュニケーションスキル」	山口大学
	7月27日	30	泌尿器科における内視鏡手術セミナー	高知大学
	9月 9日	40	「大腸がん化学療法の現状と未来～分子標的治療薬の位置づけ～」	愛媛大学
	10月 7日	29	「がん患者とQOL」	山口大学
	11月 4日	33	「がんサバイバー」	山口大学
	11月 4日	44	在宅医療ワーキング　在宅がん医療講演会	高知大学
	11月11日	25	「繊毛癌の診断と治療　ー化学療法を中心にー」	愛媛大学
	11月25日	34	「がん患者の家族」	山口大学
	12月 1日	47	「中国・四国の緩和ケアチームの現状　ーアンケート結果からー/香川大学緩和ケアチームの紹介」	愛媛大学
	1月14日		第10回 Cancer Seminar　合同講演会　テーマ:「頭頸部・甲状腺・泌尿器がんの治療～放射線治療を中心に～」	川崎医科大学
	1月18日		「肺がん診療最前線」	川崎医科大学
	2月10日		「がん患者とリハビリテーション」	山口大学
	3月 9日		「がん患者の在宅療養支援(仮)」	山口大学
	3月17日		「緩和ケア(仮)」	山口大学
	3月24日		第6回 Oncology Seminar 合同講演会　テーマ:「がん患者QOLの維持・向上を支援する」	川崎医科大学
	3月		がん治療講演会(予定)	高知大学

在宅がん医療ＷＧ

高知大学　北岡　智子

1. 取組み及び成果

1）在宅がん医療ＷＧにおいては、在宅がん医療への取り組み・コンソーシアム内でのネットワーク・今後の取り組みについて、各大学の委員による意見交換を行った。これまでに蓄積してきた地域病院とのネットワークを最大限に活かすことにより、県ごとに異なる地域事情に併せた具体的な緩和医療と地域医療の連携が可能となり、実践的な教育の場を提供出来るようになった。

2）各大学で、医療従事者を対象とした講演会、研修会等を実施し、医療従事者間の連携を図るとともに、県民の視点に立ったがん対策の推進のためのがん予防・治療・緩和的治療等がんに関する情報を広く提供できた。（資料1参照）

2. 今後の展望と課題

これまでの各大学の取組みを踏まえ、連携、情報共有を推進させるとともに講演会、研究会等の開催回数を増やしていきたい。（資料2参照）

在宅がん医療に関する講演会・研修会等実施状況（平成22年4月1日～平成23年11月30日）　　資料1

実施年月日	講演会等の名称	参加者数（名）	備　　考	大学名
H22．4.17	第4回 高知在宅緩和ケア研究会	約100		高知大学
H22．4.27	平成22年度 高知大学 緩和ケア学習会	49	『今一度、緩和ケアチームって？ －緩和ケアチームの活動と活用・依頼方法を知る－ 』	高知大学
H22．5.24	平成22年度 高知大学 緩和ケア学習会	52	『症状マネジメント① がん患者の痛みのマネジメント：その１』	高知大学
H22．5.27	平成22年度 第１回 愛媛大学 院内研修会	約90	小児の在宅支援から学ぶ継続看護 ～看護の創造力を生かした多職種連携と退院支援のポイント～	愛媛大学
H22．6.28	平成22年度 高知大学 緩和ケア学習会	69	『症状マネジメント② がん患者の痛みのマネジメント：その２』	高知大学
H22．7.10	第5回 緩和医療に関する集中セミナー in 香川	217		香川大学
H22．7.27	平成22年度 高知大学 緩和ケア学習会	52	『症状マネジメント③ がん患者の精神症状のマネジメント』	高知大学
H22．7.29	平成22年度 第2回 愛媛大学 院内研修会	約80	「急性期病院が知っておきたい在宅医療」 ～訪問看護師と語り合おうよ！～	愛媛大学
H22．8.24	平成22年度 高知大学 緩和ケア学習会	43	『症状マネジメント④ がん患者の消化器症状のマネジメント』	高知大学
H22．9．6	香川大学医学部附属病院 緩和ケア学習会	24		香川大学
H22．9.28	平成22年度 高知大学 緩和ケア学習会	65	『症状マネジメント⑤ がん患者の呼吸器症状のマネジメント』	高知大学
H22．9.30	平成22年度 第3回 愛媛大学 院内研修会	約70	「在宅ホスピスケアについて学ぼう」 ～自宅で最期まで自分らしく生きるケア～	愛媛大学
H22.10.10	徳島がん対策セミナー 在宅緩和ケア推進のための多職種連携講習会		徳島がん対策センター：講演「在宅緩和ケアに必要なコツ」	徳島大学
H22.10.26	平成22年度 高知大学 緩和ケア学習会	57	『がん治療に付随する症状マネジメント①(化学療法)』	高知大学
H22.11．2	香川大学医学部附属病院 緩和ケア学習会	38		香川大学
H22.11.13	第5回 高知在宅緩和ケア研究会	約100		高知大学
H22.11.25	平成22年度 第4回 愛媛大学 院内研修会	約60	多職種と効果的な関係づくりをおこない連携マインドを高めよう	愛媛大学
H22.11.29	平成22年度 高知大学 緩和ケア学習会	53	『がん治療に付随する症状マネジメント②(放射線療法)』	高知大学
H22.12.18	第6回 緩和医療に関する集中セミナー in 香川	151		香川大学
H22.12.27	平成22年度 高知大学 緩和ケア学習会	47	『骨転移を伴う患者の緩和治療・ リハビリテーション・リンパ浮腫のケアについて』	高知大学
H23．1.26	第15回緩和ケアフォーラムin岡山	83	地域施設間討論会	川崎医科大学
H23．1.27	平成22年度 高知大学 緩和ケア学習会	51	『緩和ケアへの移行を支えるケアについて』 『がん患者が活用できる社会資源・療養場所の移行支援』	高知大学
H23．1.29	第8回 愛媛地域医療連携ネットワーク研究会	約100	がんになっても安心して暮らせる街づくりを目指して ～超高齢社会におけるがんとの共生と地域連携のあり方について～	愛媛大学
H23．2.22	平成22年度 高知大学 緩和ケア学習会	29	『ターミナル期の症状緩和 ―鎮静（セデーション）について―』	高知大学
H23．3．3	在宅緩和ケアに関する従事者研修会		徳島県医師会	徳島大学
H23．3.15	平成22年度 第5回 愛媛大学 院内研修会	約40	患者の声に耳を傾けよう患者・家族が医療に期待すること ～がん医療における患者家族の想い～	愛媛大学
H23．3.24	平成22年度 高知大学 緩和ケア学習会&NST合同勉強会	35	『がん患者の栄養管理の実際』	高知大学
H23．4.27	第16回緩和ケアフォーラムin岡山	101	教育講演：当院での在宅緩和ケアの実際 ももたろう往診クリニック　院長　小森　栄作	川崎医科大学
H23．5.24	平成23年度 高知大学 緩和ケア学習会	21	『新生・緩和ケアチームの紹介とチームへの依頼方法のご案内』	高知大学
H23．8.10	第17回緩和ケアフォーラムin岡山	62	地域施設間討論会	川崎医科大学
H23．9．5	香川大学医学部附属病院 緩和ケア学習会	28		香川大学
H23.10.16、23、30	徳島緩和ケア研究会 第11回市民公開講座		徳島赤十字病院	徳島大学
H23.10.16	四国在宅医療フォーラム 「住み慣れた場所での看取りを支える」			愛媛大学
H23.11．2	第18回緩和ケアフォーラムin岡山		特別講演：クラウド上のグループウェアを用いた在宅緩和ケアにおける情報共有の試み 医療法人社団　鴻鵠会　理事長　城谷典保　先生	川崎医科大学
H23.11.12	第6回 高知在宅緩和ケア研究会			高知大学
H23.11.14	徳島がん対策セミナー 在宅緩和ケア推進のための多職種連携講習会		徳島がん対策センター：講演「在宅緩和ケアに必要なコツ」	徳島大学

◎在宅がん医療WGに関する調査

1．在宅がん医療に関する取組状況（平成22年4月1日～平成23年10月31日）　資料2

愛媛大学（櫃本真聿 先生）	病院職員の意識改革のための在宅医療福祉に関わっている外部講師を招いての院内研修会の開催。厚生支局の情報開示請求と四国在支診（約500カ所）へのアンケートの実施。院内に“がん総合相談ケアセンター”を設置し、がん患者・家族のアセスメントを入院前から退院後まで継続して行い、生活を重視した支援体制の強化を図る。在宅医療関係者への病院の電子カルテ情報の開示についての検討。
徳島大学（西岡安彦 先生）	徳島大学病院では「地域連携センター」と「がん診療連携センター」が中心となって地域の病院とのネットワーク作りを進めている。平成22年5月に発足した徳島市医師会在宅緩和ケアネットワーク（19病院）との交流を12月より開始した。がん種別連携保険医療機関（胃がん、大腸がん、肝がん：78、肺がん：38、乳がん：75）との術後パスの運用を検討している。徳島県レベルでは、徳島県立中央病院中心にうずの会が組織され２ヶ月に一回ミーティングが開催されてきた。平成22年、徳島大学病院と徳島県立中央病院の総合メディカルゾーンに徳島がん対策センターを設置し、在宅緩和ケア推進のための多職種連携講習会を開催している。
香川大学（板東修二 先生）	当院入院中のがん終末期患者が在宅療養を希望した際、当院では地域連携室に主治医や病棟看護師が相談・依頼をしている。患者の希望を考慮しながら在宅療養が行えるように、地域連携室が窓口となり、往診や訪問看護、介護保険サービス等の調整を行う。この際、フォーカスして力を入れて行っていることは、退院前に患者や家族、主治医、病棟看護師、地域連携室看護師、往診医、訪問看護師、ケアマネージャー等を一斉に会してカンファレンスをしていることである。このカンファレンスにて、在宅療養に向けた治療方針や患者の思いを話し合いを行っている。
川崎医科大学（山口佳之先生）	「岡山南西地区およびその周辺地区における緩和ケアの強化・充実」「在宅ケアの活性化に向けた情報交換」「切れ目の無い連携パスの完成と実践」を目的に「緩和ケアフォーラムin岡山」という会を設立している。この会において、年4回程度の勉強会・講演会を行っている。会のHPを立ち上げ、地域施設のスペックを「地域力」として公開する予定である。
高知大学（北岡智子 先生）	5大がん（胃・大腸・肝臓・肺・乳腺）・前立腺がん・婦人科がん・緩和医療について、「高知県がん診療連携クリニカルパス作成検討会」を開催し、高知県全体のクリニカルパスの作成、運用を開始した。連携大学・病院・高知県HPに掲載している。

2．今後の在宅がん医療WGの活動について

愛媛大学（櫃本真聿 先生）	インターネットを活用した、在宅医療関係者への病院の電子カルテ情報の開示（長崎あじさいネット等の導入）とうによる病院とかかりつけ医によるW主治医体制の推進。がん当事者との連携による患者の生活を重視した医療体制づくりに向けて、急性期病院の医療者のがんの在宅医療に関する意識改革。
徳島大学（西岡安彦 先生）	在宅がん医療に関する講演会開催。専門医の育成。
香川大学（板東修二 先生）	在宅がん医療の向上のため、今後、関係機関とともに患者カンファレンスを行うことを検討していくことを考慮している。
川崎医科大学（山口佳之 先生）	特にありません。今回のような活動の情報交換。
高知大学（北岡智子 先生）	これまでの取り組みを踏まえ、各大学との連携、情報共有を推進させるとともに講演会、研究会等の開催回数を増やしていきたい。

医学物理士コースWG

徳島大学　上野　淳二

中国・四国広域がんプロ養成プログラムにおける医学物理士コース参加校は、岡山大学および高知大学、徳島大学の3校であります。岡山大学では大学院の修士（保健学）課程に医学物理士・放射線治療品質管理士養成コースとして、インテンシブコースを含めて開講されており、高知大学では大学院の修士（医学）課程に専門放射線治療技師コースとして、徳島大学では修士（保健学）課程に医用情報理工学分野（医学物理士養成コース）として開講されております。

医学物理士コース参加校3校で医学物理士コースワーキンググループ（WG）委員会を組織し、カリキュラムの策定およびファカルティ・ディベロップメント（FD）の実施、コンソーシアムのカリキュラム運営企画委員会への参加、医学物理士コースWG委員会（4回/年）の開催、医学物理士コース外部評価会議（2回）の開催などを行いました。

医学物理士コースの教育カリキュラムは、コンソーシアム内での大学間共通カリキュラムの策定と標準化を行うこと、および各大学の修士課程カリキュラムとの整合性を図ること、平成20年当時の日本医学放射線学会医学物理教育ガイドラインの履修科目に適合させること、医学物理士コース3大学内での共通専門科目を設定することを目標として策定されました。3大学内での教育内容および水準を合わせるために、共通専門科目である放射線治療品質管理学特論の講義内容を平成21年度よりe-learning化しました。また、インテンシブコースを岡山大学のコースに設け、コンソーシアム内で受講可能にしました。また、医学物理士コース履修学生には修士課程としての特別研究が義務づけられており、放射線治療を含めた広い範囲での研究テーマで研究指導が行われました。

医学物理士コースでは、ファカルティ・ディベロップメント（FD）としてセミナーおよびインテンシブコースの開催および指導者の研修派遣を積極的に行いました。セミナーは徳島大学主催で6回、高知大学主催で2回、岡山大学主催ではセミナーおよびインテンシブコースを併せ58回（H23年10月末まで）を開催しました。指導者研修派遣としては国内先進がんセンターや講習会への派遣を各大学から個別に派遣すると共に、海外の先進がん治療施設へは3大学合同での派遣を行い、平成20年度からは医学物理士コース独自で放射線治療専門施設への派遣を行いました。

医学物理士コースの学生受け入れ実績は、申請当初の目標を達成することができ、資格取得者も医学物理士認定試験合格者、放射線治療品質管理士資格取得者、放射線治療専門放射線技師資格取得者などを排出いたしました。なお、インテンシブコース受講者からも医学物理士認定試験合格者12名が得られたことは、中国・四国地域の放射線治療レベルアップに貢献できたものと思われます。

医学物理士コースでは、平成22年2月13日と平成23年10月15日にコース独自で中間時点および最終年度での外部評価を実施しました。そこではより一層の教育体制の充実として、医学物理士資格を持つ教員数の確保や、実習体制の充実、基礎物理や基礎数学などの基礎科目の充実の必要性が挙げられました。また、診療放射線技師の大学院教育内容と医学物理士のための大学院教育の差異が明確になっていないなどの問題点が指摘されました。中間時点の外部評価後では、岡山大学を中心としたインテンシブコースの充実や、海外研修の研修内容を研修者毎の個別研修内容とするなどより具体的な内容に変更し、指導者の養成に務めました。また、徳島大学では病院内に放射線診療品質管理センターを設置し、放射線治療の品質管理体制を改善すると共に、医学物理士臨床研修の体制を整備中であります。

来年度から医学物理士認定機構による医学物理士教育コース・放射線治療分野の認定が開始される予定ですが、この教育コース認定制度への対応につき医学物理士コースWG委員会において検討中であります。今後も医学物理士教育についての社会に対する啓蒙活動や医療関係者、行政、コンソーシアム内、学内などでの理解を深める活動を行うと共に、医学物理士資格を持つ教員および病院従事者を充実させ教育体制の整備に努め、教育の充実に取り組んでまいります。

eラーニングWG

山口大学　岡　正朗

1. eラーニングＷＧの概要

eラーニングＷＧは、中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムにおいて中国・四国地区の広域に所属する大学院生がいつでもどこでも簡単に利用できる共通教育教材としてeラーニングを作成し、整備することを目的としたワーキンググループである。

2. eラーニングの目的

eラーニングの目的は、大きく分けて以下の3つである。

①時間、場所に関係なく、自由に質の高い教育を受けることができ、自己学習を進めることができる。
②専門医師のいない施設でも専門性の高い教育を受けることができる。（教育の補完）
③広域地域での専門性の均てん化を図ることができる。

3.コンテンツ作成システム3eRECの紹介

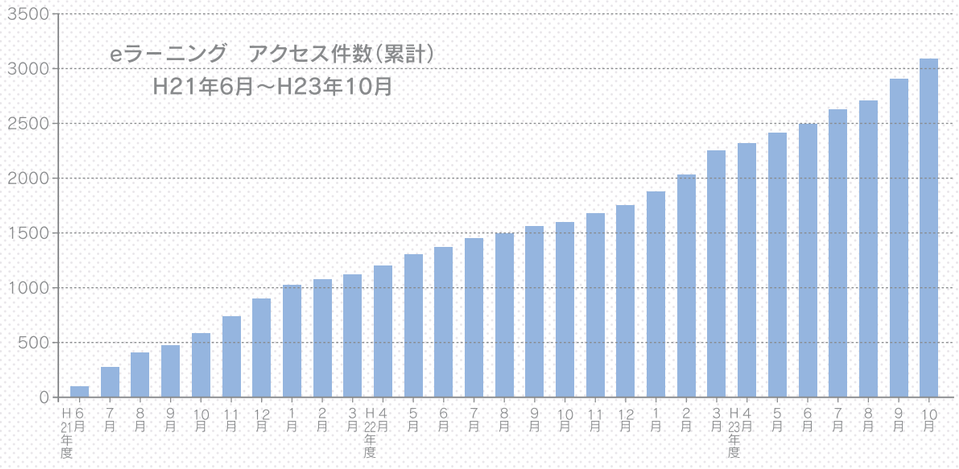
eラーニングの目的を実施していくために木村情報技術(株)の3eREC(コンテンツ作成システム)を各大学に購入した。

同システムは、講師PCとプロジェクターに接続すると、通常の対面講義と講義収録を行うことが出来る。また、講義終了と同時に利用可能なコンテンツが作成される。本来はライヴ講義配信機能を有し、他大学の講義をライヴで受講することができるが、著作権等の問題からライヴ講義を収録したものや、参考用コンテンツとして作成したものをいつでも視聴することができるオンデマンド学習用としてのみ使用している。

3eREC（コンテンツ作成システム）の操作

講師PCとプロジェクターに接続し、講義を行うことで、講義終了と同時に利用可能なコンテンツが作成される。

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム



4. eラーニングの成果（作成されたコンテンツおよびアクセスについて）

各大学による講義収録されたコンテンツは、平成20年度から蓄積し、現在、中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムのホームページにアップしている。

平成23年10月現在、計293のコンテンツを掲載しており、講義によっては定期的に更新を行っている。中四国のカリキュラムは共通コアと専門科目に大きく分かれており、各講義科目について得意とする大学が補い合って全体をほぼ網羅したeラーニングコンテンツを提供することができた。これにより、当コンソーシアム8大学の学生はいつでもどこからでもアクセスでき、目的の講義を受講できるシステムを構築できた。

5. eラーニングの問題点について

eラーニングを行う際には、著作権に抵触しないために注意が必要である。当コンソーシアムでは、特に以下のことに気をつけている。

（1）全講師にスライド作成時の注意事項の周知徹底
（2）収録コンテンツにおける二重、三重の著作権チェック

著作権の確認は、まず講義担当者によるチェックから始まり、各大学と岡山大学事務局でのチェックによりホームページにアップしている。

6. コンソーシアム内におけるeラーニングの活用と今後の課題

eラーニングアクセス件数に関しては、当初こそ学生への周知不徹底などによるばらつきが見られたが、eラーニングアクセス件数（H21年6月～H23年10月）は総合件数で3,093件になった。特に徳島大学は既存の大学院コースにおいて、既にeラーニング形式のカリキュラムが定着しており、教員、学生ともに習熟しているためアクセス数も多い。これらのノウハウは他大学のeラーニングシステム活用において活かされている。

また、講義としての受講以外に、学生が興味を持つ専門分野等が幅広く視聴されており、当初の目的である ①時間・場所に関係なく、自由に質の高い教育を受けることができ、自己学習を進めることができる。②専門医師のいない施設でも専門性の高い教育を受けることができる。(教育の補完) ③広域地域での専門性の均てん化を図ることができる。という趣旨にも充分合致することができた。今後はさらなるコンテンツの充実、アクセス件数の均てん化を図ることでeラーニングシステムを8大学で拡充・発展させることにより、教育におけるさらなる効果が期待される。また中四がんプロコンソーシアムとして、平成23年夏からがんプロ全国eラーニングクラウドに関する5拠点会議に出席し、筑波大学を中心とした全国規模のeラーニングクラウド化に参加予定であり、実現すればさらなる広域・均てん化したがん専門医療人育成プログラムを構築できるものと期待している。

緩和療法医コースWG

香川大学　合田　文則

緩和ケア専門医を目指した大学院教育

緩和ケア専門医養成コースは中国･四国広域がんプロ養成コンソーシアム参加8大学のうち、香川大学、岡山大学、徳島大学の3大学で開講している。香川大学では開講初年度の平成20年度に5名、平成22年度に1名の大学院生を受け入れた。緩和ケア専門医養成コースの大学院入学者は、すべて緩和ケアの第一線で活躍している社会人である。その内訳は、消化器内科を習得し、開業して在宅ホスピスを実践している学生、民間の緩和ケア病棟に勤めている学生、内科医として勤務しながら緩和ケアチームで活躍する学生、主にがん薬物療法に従事している学生、麻酔･ペインクリニックに従事している学生であり、そのバックグラウンドは様々である。入学の目的は、今後も緩和ケアの領域で活躍するために、緩和ケアの系統だった知識とチーム医療の習得を行い緩和ケア専門医を取得することである。

大学院生は、共通コアカリキュラムに沿った単位の修得と、大学病院の緩和ケアチームのカンファレンス･回診へ参画しつつ、緩和医療学会の専門医申請規程要綱に従い、学生が専門医取得に必要な研修を行った。また、研究は担当する指導教官のもと個別に研究を進めている。

ＦＤ養成による緩和ケア教育の充実

緩和ケア教育にあたる教員の質の向上と、中国･四国広域における緩和ケアの均てん化とレベルの向上をはかることを目的に、海外の緩和ケアプログラムに参加し緩和ケア教育を実践できるFDの実施を行ってきた。Edmonton Capital Healthの緩和ケア教育プログラムに平成19、20、22年度にコンソーシアム内から医師、薬剤師、看護師のべ36名をFDとして派遣した。これらFDは、中国･四国広域における緩和ケアの教育において重要な役割を果たしている。

また、毎年チームエドモントンタスクフォースミーティングを開催し、教育講演等の企画、講演を行なっている。

緩和ケアの質の向上を目指した緩和ケア研修会および緩和ケアチーム懇話会

中国･四国広域の緩和ケアの質の向上を目指し、インテンシブコースとして緩和ケア集中セミナーを緩和ケアＷＧが中心となり、定期的に開催してきた。毎回、中国･四国地区すべての県から多数の参加をいただいている。また、中国･四国広域の緩和ケアチームが一同に会する緩和ケアチーム懇話会を毎年開催し、ともすれば孤軍奮闘になりがちな緩和ケアチーム同士の連携の強化を図っている。

中間評価（文科省･前回の外部評価）指摘事項への対応

①連携大学･病院の連携体制や指導者の相互乗り入れ等の強化

緩和ケアＷＧで、中国･四国広域での緩和ケアの教育･啓蒙を含めた連携について検討した。その結果、現在行っているインテンシブコースとして緩和ケア集中セミナーと連携大学･病院およびがん診療拠点病院からなる緩和ケアチーム懇話会は全体の交流を深める（顔の見える関係を構築する）点でメリットがあり継続することが望ましいが、緩和ケアは地域に密着していることが重要で、中国･四国広域でのネットワークは現実的でないため、各県あるいは2次医療圏ごとにネットワークの構築を進めることとなった。各連携大学･病院の県あるいは2次医療圏ごとのネットワーク準備状況は表1のとおりである。また、香川県地区の緩和ケアの活動状況を表2にまとめた。これらの会への指導者の積極的な派遣を進めたい。

表1　各県、医療圏における緩和ケアに係るネットワーク等の実施

岡山県	野の花プロジェクト、在宅がん医療協議の開催を行っている。また、緩和ケアフォーラムin岡山を年4回開催している。
山口県	山口県在宅緩和ケアガイドブックが作成され、全県下の在宅緩和ケアが可能な開業医がリストされている。このガイドブックをもとに地域がん診療拠点病院が中心となって、各二次医療圏内での在宅緩和ケアシステムが構築されつつある。
徳島県	徳島市医師会在宅緩和医療ネットワークと連携してネットワーク作りを進めている。治療記録ノートを作成、連携に利用している。
香川県	がん診療連携協議会（県、がん診療拠点病院、医師会）の緩和ケア部会を中心にネットワークを構築している。
愛媛県	愛媛県がん対策推進条例にもとづく「愛媛県在宅緩和ケア推進協議会」が発足した。また、がん診療連携協議会の相談支援･緩和ケア分科会で定期的な集まりがある。
高知県	在宅緩和ケア研究会及び高知緩和ケア研究会を開催している。

表2　香川県地区緩和ケアの活動（平成22･23年度）

	開催日	名　称	内　容
通年	毎週金曜日	香川大学医学部附属病院緩和ケアチーム研修	緩和ケアチームの診療に同席し、ベッドサイドで、緩和ケアチームのメンバーが習得すべき知識や技術について学ぶ。及びｶﾝﾌｧﾚﾝｽに参加。
平成22年度	5月21日	緩和ケア研修会	症状緩和について「現場での疼痛マネジメントを考える」
	6月25日	緩和ケア研修会	疼痛マネジメントにおける事例検討
	3月 7日	香川大学医学部附属病院緩和ケア学習会	緩和ケア学習会「睡眠障害の病態とその治療」「心のケア」 （香川大学医学部附属病院　新野　医師） （香川大学医学部附属病院　上野　腫瘍センター臨床心理士）
	5月10日	香川大学医学部附属病院緩和ケア学習会	緩和ケア学習会「緩和医療としての放射線療法」 （香川大学医学部附属病院　戸上　医師）
	5月14日	高松赤十字病院緩和ケア勉強会	「緩和ケアについて」（講師：酒井智子 緩和ケア認定看護師）
	5月14日	第303回臨床談話会	［臨床談話会300回記念講演会「緩和ケアを考える」］ 「病院での緩和ケア」「私の在宅ホスピス、緩和ケア」
	6月11日	高松赤十字病院緩和ケア勉強会	「終末期における社会的支援」（講師：梶野隆子 MSW）
	7月 5日	香川大学医学部附属病院緩和ケア学習会	緩和ケア学習会「がん患者の褥瘡ケア」 （香川大学医学部附属病院　大島　副看護師長）
	7月 9日	中国･四国地区 緩和ケアチーム懇話会	医療チームによる緩和ケア
	7月 9日	高松赤十字病院緩和ケア勉強会	「疼痛マネジメント」（講師：酒井智子 緩和ケア認定看護師）
	9月 6日	香川大学医学部附属病院緩和ケア学習会	緩和ケア学習会「あなたらしい生活の中で」 （高松訪問看護ステーション所長　長内　看護師）
	9月10日	高松赤十字病院緩和ケア勉強会	「鎮痛薬について」（講師：岡野愛子　がん薬物療法認定薬剤師）
	10月 1日	高松赤十字病院緩和ケア勉強会	「呼吸困難」（講師：林章人　呼吸器科内科）
	11月 1日	香川大学医学部附属病院緩和ケア学習会	緩和ケア学習会「がん患者の口腔ケアと摂食･嚥下リハビリテーション」 （香川大学医学部附属病院　大林　医師）
	11月 1日	東四国医療セミナー	「緩和医療における薬剤師の役割」
	11月12日	高松赤十字病院緩和ケア勉強会	「スピリチュアルケア」（講師：島津昌代　臨床心理士）
	1月14日	高松赤十字病院緩和ケア勉強会	「エンゼンルケア」（講師：酒井智子　緩和ケア認定看護師）
	1月14日	三豊総合病院NST勉強会	「終末期の栄養と輸液」
	2月 4日	高松赤十字病院緩和ケア勉強会	「緩和ケアにおけるリハビリテーション」（講師:中尾都　理学療法士）
	2月17日	専門職研修会	「緩和ケアにおけるコミュニケーションの実際」
	3月 1日	東四国医療セミナー	「緩和ケアチーム活動の実際と臨床心理士の役割」「神経障害性疼痛の診断と治療」
	3月 4日	高松赤十字病院緩和ケアセミナー	「緩和ケアにおける薬物療法について」「がん患者とのコミュニケーション」
	3月 5日	香川大学医学部附属病院緩和ケア学習会	緩和ケア学習会「症例検討会」
平成23年度	5月 9日	香川大学医学部附属病院緩和ケア学習会	緩和ケア学習会「がん患者における消化器症状のコントロール」 （香川大学医学部附属病院　合田　医師）
	5月17日	三豊総合病院専門研修	緩和ケアについて
	6月10日	高松赤十字病院緩和ケア勉強会	「緩和ケア概論」（講師：吉澤潔　副院長）
	6月17日	綾歌地区医師会学術講演会	「痛みに対する漢方治療の実際」
	7月 4日	香川大学医学部附属病院緩和ケア学習会	緩和ケア学習会「医療者のメンタルケア」 （慈圭病院　岩切　精神看護専門看護師）
	7月 7日	緩和ケア勉強会	フェンタニル貼付剤使用上の注意点について
	7月 8日	中国･四国地区 緩和ケアチーム懇話会	「緩和ケアチームと緩和ケア病棟ー急性期病院における役割分担ー」
	7月14日	第12回香川漢方研究会	「緩和ケアと漢方」
	8月25日	香川労災病院緩和ケア研修会（仮称）	演題未定 （講師：三豊総合病院緩和ケア病棟　細川 先生）
	9月 4日	日本ホスピス緩和ケア協会四国支部会「LCPワークショップ」	
	9月 5日	香川大学医学部附属病院緩和ケア学習会	緩和ケア学習会「在宅医療について」 （さんあいクリニック　三谷　医師）
	10月16日	平成23年度香川県医学会	「緩和ケアと漢方」
	11月 7日	香川大学医学部附属病院緩和ケア学習会	緩和ケア学習会「がん化学療法における支持療法」 （香川大学医学部附属病院　大上　がん化学療法看護認定看護師）
	11月18日	専門職研修会	「がんの疼痛コントロール」
	12月 2日	緩和ケア勉強会	「がん疼痛薬物療法の新しいながれ」
	10月頃	緩和ケア勉強会	
	1月頃	緩和ケア勉強会	

②インテンシブコースとして緩和ケア集中セミナーのOutcome評価

現在までに7回の緩和医療に関する集中セミナーを開催した。参加者へのアンケートによるセミナーの評価を行うこととした。

成果

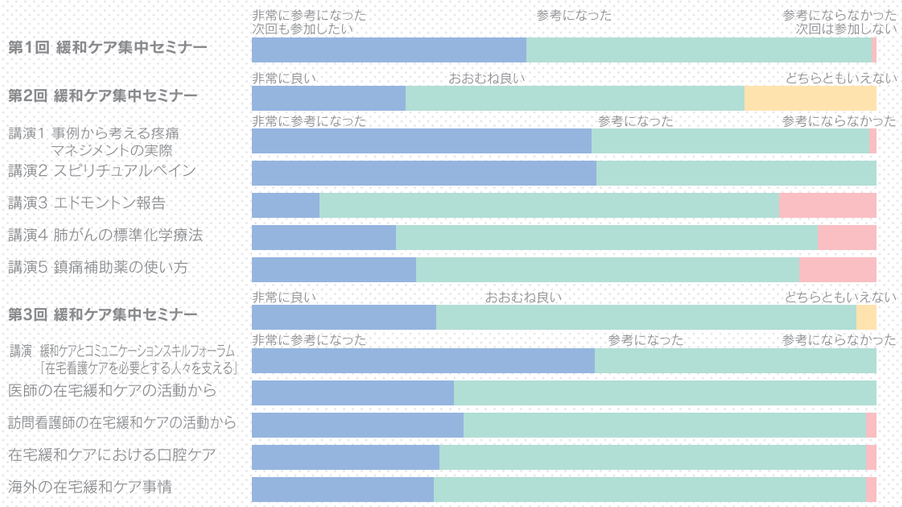
①専門医取得見込み数

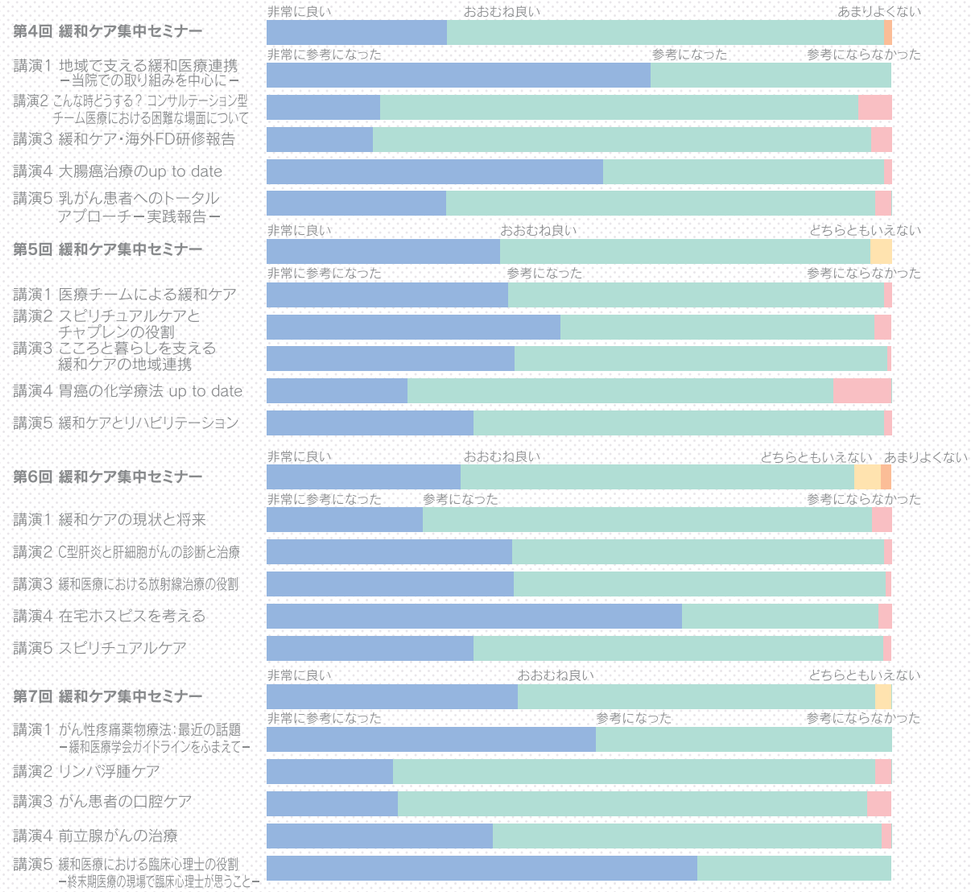
		合計	岡山大学	川崎医科大学	山口大学	徳島大学	香川大学	愛媛大学	高知大学	四国がんセンター
見込み数		8	1	2		1	3	1		
内訳）	院生	5		2		0	3			
	その他	2	1			1				0

②インテンシブセミナーの開催状況

		合計	岡山大学	川崎医科大学	山口大学	徳島大学	香川大学	愛媛大学	高知大学	四国がんセンター
平成19年度	開催件数	2			1		1			
	参加者数	362			122		240			
平成20年度	開催件数	27		1	3		22			1
	参加者数	962		75	186		673			28
平成21年度	開催件数	38		1	2		28		5	2
	参加者数	884		170	168		246		240	60
平成22年度	開催件数	24	1		3	5	14		1	
	参加者数	705	5		124	69	457		50	
平成23年度（予定含）	開催件数	7	2		1	0	2	1	1	
	参加者数	800	50		未定	0	600	100	50	

③集中セミナーの開催と評価





今後と課題

緩和ケアWGは地域に根差した緩和ケアネットワークの構築に向け、ブロック制のなかでの緩和ケアの均てん化を目指すこととした。そのうえでコンソーシアム内のＦＤを指導者としてうまく活用していく方策を検討したいと思っている。

インテンシブの受講者によるセミナーの評価および受講者のがんに関係する専門医療人が輩出できたかも合わせて検討する。

緩和ケア専門医を目指してプロフェッショナル養成プランを選択した大学院生は、物理的・時間的な制約のなか、入学の目的を到達しようとしているが、そのインセンティブが働くような体制整備がないために、それに続く人材が少なくなっていることが大きな課題である。また、学会の専門医の要項が、緩和ケア専門医養成コースの大学院募集の後に定められたが、がんプロ養成コースの学生への十分な配慮がなされていないため学生の意欲の低下もみられる。緩和ケア専門医養成コースを目指す学生は専門医の申請要項を満たしたものも多く、緩和ケア専門医養成コースのインセンティブを打ち出していく必要がある。緩和ケアに従事する医療者に対するインセンティブも必要な要件と考えている。

日本においては、チーム医療に参画する医療者の評価が低いため、職場の体制や給与面で不利益を受けることが多い。専門人となった後の待遇面での改善をはかることが火急の課題である。

ファカルティ・ディベロプメント(FD)WG

川崎医科大学　中田　昌男

1. これまでの取り組み

① 指導者の海外研修

がん専門医療人を育成するための効率的プログラムの構築と各教員の資質・教育能力の向上を目的として、平成19年度から4年間にわたり、Johns Hopkins Singapore(シンガポール)、H. Lee Moffitt Cancer Center(米国)、Grey Nuns Community Hospital(カナダ)など海外の優れた施設に教員を派遣し研修を行った。主な研修目的は、緩和医療・薬物療法・がん看護・チーム医療・放射線療法である。派遣者数は、医師59名、看護師29名、薬剤師13名、放射線技師7名、医学物理士2名の合計110名であった。

② 研修報告と還元

研修後は研修内容をコンソーシアムホームページ上に公開するとともに、平成21年7月にコンソーシアムとしてFDワークショップを開催し海外研修全体報告会を実施した。

また各施設において、海外研修に派遣された指導者を中心に勉強会を開催し研修内容を還元するとともに、施設内の教育チームの形成および教育プログラムの構築・改善を開始した。

③ タスクフォースの形成とFDの実質化

中間評価における指摘を受けて、緩和医療・がん看護・チーム医療・医学物理士の各領域において海外研修に派遣された指導者もしくは各施設での指導責任者を中心としたタスクフォースを形成してFDの実質化を図るとともに、指導者の相互乗り入れを開始した。これらの現状報告と今後の展開について、平成22年、23年にコンソーシアムFDワークショップを開催し全体討議を行った。

2. FD活動の実績

① 緩和医療教育

香川大学を中心に、カナダ・エドモントンで研修を積んだ指導者がタスクフォースを形成し、コンソーシアム内で開催されるセミナーならびに地域での教育・啓発活動において連携をとりながらFD事業を展開している。今後は、エドモントンの教育プログラムを骨格としたコンソーシアムの共通プログラムを作成する予定である。

② がん看護教育

高知女子大学大学院、岡山大学大学院、徳島大学大学院の3校は、専門看護師養成を目的とした合同セミナーを定期的に開催し指導者の相互乗り入れを行っている。また、岡山大学病院、川崎医科大学附属病院において、それぞれの施設の現状に応じたがん看護専門教育プログラムが新設されすでに研修が開始されており、大学教員が指導にあたっている。

③ チーム医療教育

チーム医療教育を目的に、平成21年よりコンソーシアム大学院生を対象とした1泊2日のワークショップ形式合同演習を年1回開催しており、コンソーシアムの大学院生には参加を義務付けている。ファシリテーターは各施設から海外研修に参加した多職種の教員がつとめている。

④ 医学物理士教育

医学物理士コースでは、おもにインテンシブコースにおける講義・実技指導に指導者の交流が行われている。一方、大学院教育では基礎系大学教員との連携も実施している。

⑤ 地域がん診療拠点病院に対するFD活動

各施設の指導者は、それぞれの県のがん診療拠点病院連携協議会の中心的メンバーを兼務し、協議会と連携しながら緩和医療、がん看護等に関するセミナーやインテンシブコースを開催し、がん診療の均てん化と全体的な質の向上に向けて活動を行っている。

3. 今後の展望

海外研修を受けた教員によるタスクフォースが形成され実質的なFD活動が開始されたところである。すでにチーム医療教育ではコンソーシアムの大学院生に対する統一教育プログラムが実行されており、その他の領域においても今後展開していきたい。

同様に各施設の教員に対するFD活動も開始され継続的な指導者養成が行える環境が整備された。今後は施設間での指導者相互乗り入れをさらに活発化するともに、がんプロ講義やすでに共有している教育コンテンツを教員のFD事業にも活用できるような体制整備を検討したい。

地域に対するFD活動では、各県のがん診療拠点病院協議会と密に連携をとりながら推進していくことになるが、地域によって医療環境が大きく異なるため、コンソーシアムとしてどのような形でFD事業に関与できるかは今後の検討課題である。

他コンソーシアムとの連携も今後の大きな課題である。地域性を考慮しつつ、統一化できる部分は連携に向けて検討したい。

腫瘍外科医コースWG

山口大学　岡　正朗

1. 腫瘍外科医専門医コースの概要

当コースは、がん医療の担い手となる高度な知識、技術を持つがん専門外科医の養成を目的として設置された。最終的には各外科系学会の専門医（外科学会専門医など）やがん治療認定医、がん薬物療法専門医の取得を目標としている。愛媛大学、岡山大学、香川大学、川崎医科大学、高知大学、徳島大学、山口大学の7大学に設置されており、主幹校は山口大学が担当している。

2. 腫瘍外科専門医コースの特色

外科的専門技術を習得するために各種シミュレータを用いた演習を行っている。ボックストレーナーを用いた縫合操作や鉗子操作、内視鏡手術シミュレータを用いた模擬手術の演習、超音波画像診断装置とシミュレータを組み合わせた中心静脈カテーテル挿入や胸腔ドレーン挿入の演習などを実施している。

また、中四がんプロのホームページに各大学の腫瘍外科手術映像がアップロードされており、学生がいつでもアクセスして手術手技を学べるよう整備されている。現在27のコンテンツがアップロードされている。

徳島大学における演習風景

山口大学における演習風景

腫瘍外科手術映像TOPページ

3. 腫瘍外科専門医コースの5年間の実績

平成23年度までの各大学の入学者数は愛媛大学が5名、岡山大学が20名、香川大学が6名、川崎医科大学が7名、徳島大学が16名、高知大学が2名、山口大学が15名であり、コンソーシアム全体として総計71名の入学者があった。各大学とも数多くの外科系専門医を輩出しており、またキャンサーボード演習や化学療法演習を実施することにより、外科系専門医のみならずがん治療認定医やがん薬物療法専門医も養成している。このように腫瘍外科専門医コースは多くの実績をあげておりその活動は高く評価されるものと思われる。

	愛媛大	岡山大	香川大	川崎医科大	徳島大	高知大	山口大
H23受入人数	1	4	1	2	2	1	4
腫瘍外科コース全在籍人数（H19−H23）	5	20	6	7	16	2	15
他科での化学療法演習の実施状況		整備済	実施	実施	実施		実施
キャンサーボード実施状況	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施
取得者数及び取得見込者数 ①各外科専門医（延べ人数）	取得−5 見込−0	取得−15 見込−5	取得−5 見込−0	取得−6 見込−5	取得−11 見込−1	取得−0 見込−2	取得−10 見込−5
②がん治療認定	取得−3 見込−2	取得−6 見込−14	取得−2 見込−1	取得−3 見込−5	取得−4 見込−5	取得−0 見込−2	取得−5 見込−10
③がん薬物療法専門医	見込−2		見込−1	見込（希望）−5			見込−2

4. 今後の展望

これまでに腫瘍外科専門医コースとしてコンソーシアム内で積極的な交流が図られてきた。今後も大学間の連携強化を図り、数多くの腫瘍外科専門医の養成を目指していく。

また外科系コースの特徴として、これまで整備してきた手術DVDライブラリーのコンテンツ数を増加させ、各種手術手技につきオンデマンドで学習できるように充実化を図っていく。

がん薬物療法専門医コースWG

岡山大学　谷本　光音
愛媛大学　安川　正貴

1. 取り組み内容ならびにコース概要

がん薬物療法専門医コースは、がんに関連する研究で学位を取得するとともに、大学院がんプロコースでの履修を通じて、修了の時点で臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医に必要な臨床腫瘍学の知識習得と、多臓器にわたるがん化学療法の経験を積み、将来臨床腫瘍学の指導者となる人材を育成し、地域（中国・四国地方）に輩出することを目的とする。

2. 中間評価・外部評価の指摘事項への対応

（1）中間評価

指摘事項：連携大学・病院の連携体制や指導者の相互乗り入れ等の強化を図る必要がある

対応：インテンシブコースにおいては、広く臨床腫瘍学の研修受け入れプログラムを作成し、各がん診療連携拠点病院との連携を強化してきた。またFD研修を受けた内科系指導者が、それぞれタスクフォースを形成し、コンソーシアム内で共有できる教育カリキュラムの作成を進めている。

指摘事項：放射線療法、化学療法ともに専門特化した講座設置について検討する必要がある

対応：すでにコンソーシアム内の大学病院には「腫瘍（がん）センター」が設置され、がん患者の治療のみならずがんプロ大学院生の教育に主導的な役割を担っている。また、コンソーシアム内で各大学が特色を生かしつつ、多診療科との連携機能を有する講座を設置準備中である。

指摘事項：補助事業終了後のプログラム継続を目指した他大学との連携のあり方を考慮する必要がある

対応：今後ともe-learningなど既存のシステムを用い、コンソーシアム内の各大学教員間の連携を継続して行く予定である。また各大学教員・大学院生が一堂に会して行っている「チーム医療合同演習」を今後も定期的に開催し、各施設との連携を強化していきたい。

（2）外部評価（平成21年度）

指摘事項：インテンシブコース受講者から輩出した専門医取得者数を明らかにすべきである

対応：多数のインテンシブコースを実施しており、その中からも一定数の専門医を輩出している（表2）。このことは、今後各地域におけるがん医療の均てん化に資するものと考える。

指摘事項：学生のチーム医療への貢献をどのように促進し、その効果をどう評価すべきか検討を要する

対応：コンソーシアム内の全がんプロ大学院生・教員を対象としたチーム医療実習（合同演習等含む）の定期的な開催や、外来化学療法や緩和ケアチームへの参加を通じ、チーム医療の重要さを経験する試みを現在まで行っている。

3. 成果

（1）実習

臨床実習については、各大学病院長宛に効率的な実習が可能となるように申し入れを行い、薬物療法専門医受験資格である症例経験要件を意識しながら、所属学内（附属病院）において可能な限りの臓器横断的な実習を提供している。また、コンソーシアムに参加する県内外のがん診療連携拠点病院での実習を推奨し、幅広い臓器の腫瘍症例の経験を担保し得た。具体的には、三豊総合病院（香川大学から）がん研有明病院（愛媛大学・徳島大学から）国立がんセンター中央病院（徳島大学から）等の実績を有する。またコンソーシアムの一員である四国がんセンターでは複数の大学院生が短期のローテーション研修を行っている。

(2)学位研究

学位取得のために、研究に関しては大学ごとに専門領域のノウハウを十分生かしながらその指導にあたっている。事実、国内外の学会でその結果は複数報告されており、当該論文も一部の学生では掲載されており、学位取得に向けた教育指導の成果は着実に実を結びつつある。

(3)がん薬物療法専門医資格取得

本コースの主要到達目標の一つである薬物療法専門医資格取得に関しては、表1に示すごとくの進捗である。すでに資格を取得した大学院生が一定数存在することが分かる。
また、本コースカリキュラムの一環として、腫瘍内科系のインテンシブコースにも力を入れており、地域にてがん薬物療法に携わる医師を対象に、各人の専門性の維持・向上を目指した、がん診療の最新の知識を提供している。このインテンシブコースからも一定数の専門医資格を取得した受講生が存在し、地域におけるがん医療の均てん化に資するものと考える(表2)。2010年7月の時点ではあるが、人口100万人当たりのがん薬物療法専門医数は岡山県を中心として中国・四国地区では軒並み全国平均を上回っており(除:広島県)、本プログラムによる波及効果が少しずつ得られていることが示唆される(図1)。

がん薬物療法専門医コース受入学生数一覧・専門医取得一覧

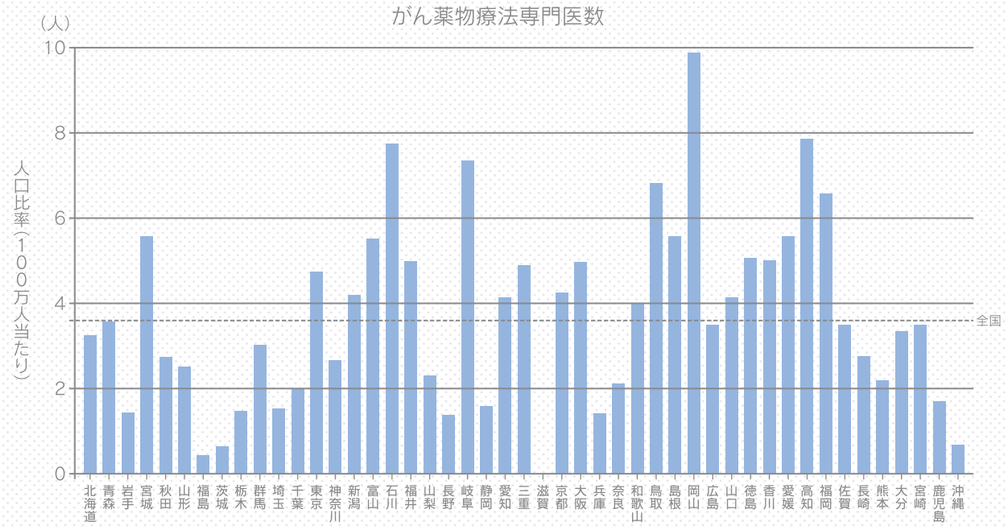
表1

	愛媛大学	岡山大学	香川大学	川崎医科大学	徳島大学	山口大学	高知大学
腫瘍内科系専門養成コース学生受入数(合計)	6	14	8	2	23	10	2
H19	0	0	0	0	0	0	0
H20	4	6	2	0	9	7	1
H21	1	4	4	0	6	0	1
H22	1	2	2	2	5	2	0
H23	0	2	0		3	1	0
H23年度卒業見込み	4	5	2		8	5	1
がん薬物療法専門医取得者数	0	5	1	0	0	0	1

表2

	愛媛大学	岡山大学	香川大学	川崎医科大学	徳島大学	山口大学	高知大学
インテンシブコース受講者数(合計)※	25	153	207	233	0	1937	1255
H19	0	28	0	26		122	130
H20	7	27	101	71		471	316
H21	6	18	100	74		905	324
H22	6	39	6	62		296	285
H23	6	41	0			143	200
がん薬物療法専門医取得者数	3	5	1	0		0	5

※がん薬物療法コースに関するコースのみ



データソース: がん薬物療法専門医数=日本臨床腫瘍学会ホームページより(2010年7月12日現在)
出典: 平成21年10月1日現在統計人口(総務省統計局)
加工: 日本医療政策機構　がん政策情報センター

【図1】人口比率でみた都道府県別のがん薬物療法専門医数

4.今後の展望

①e-learningなどのハード面での整備は整っており、維持管理にある一定の予算があれば、今後とも大学間、病院、あるいは他コンソーシアムとの連携を視野に入れた大学院教育を継続していくことが可能である。

②ワークショップ形式の合同演習、指導者の育成ならびにFD修了者を中心とした相互乗り入れなど、大学間および拠点病院と協働しながら人的交流を継続発展させる。これにより、コンソーシアム内の関連施設間の連携強化を図り、教育レベルの向上・均質化を目指し、中国・四国エリアから多数のがん診療の専門家の輩出を目指す。

③この5年間で構築した教育プログラムの継続的な実行を通じて、さらなる大学院の教育強化及びがん薬物療法に精通した人材の持続的な育成・強化を目指す。

④当該地域のがん医療の均てん化を目的として、新規がん薬物療法専門医のがん診療連携拠点病院への系統だった効率的配置に関し、コンソーシアム内の各大学と連携拠点病院との間で考慮・調整するプログラムを構築する。

放射線治療医コースWG

岡山大学　金澤　　右
武本　充広

1. 本コースの修了要件及び履修方法

日本医学放射線学会の放射線科専門医（治療）取得のためのカリキュラムを終了する。このため3年次または4年次までに講義・演習、臨床研究および実技・実習（専門科目）として規定の単位を履修する。放射線治療専門医コースの講義内容は、日本放射線腫瘍学会の卒前教育コアカリキュラムに基づく教育スライドや専門医会の放射線治療ガイドラインも参照し、専門医試験ガイドラインを網羅した形としている。実施した講義は遠隔地においても聴講でき、さらに繰り返し学習できるようe-learningのサーバ内に蓄積している。最低経験症例数は専門医試験ガイドラインに準ずる。なお講義・演習の共通部分では医学物理士・放射線治療品質管理士養成コースとの相互乗り入れとする。授与する学位は博士（医学）であり、臨床研究の結果を論文として発表する。その論文で学位審査を受け、合格する。

2. 学生数

大学院臨床専門医コース（放射線治療専門医養成コース）はコンソーシアム内の高知県立大学を除く7大学が担当し、年間7名の放射線治療専門医の養成を目標としている。本年度は1名の入学者数となっており、本コース未申請の大学があるものの毎年1名以上の学生数が確保されている。

	愛媛大学	岡山大学	香川大学	川崎医科大学	高知大学	徳島大学	山口大学
平成20年度	0	1	0	0	0	0	0
平成21年度	1	0	0	0	1	0	0
平成22年度	1	1	0	0	0	2	1
平成23年度	0	0	0	0	1	0	0

3. H22年度実績

がんプロ講義として専攻間共通基礎教育課程科目・腫瘍制御学講座共通科目・放射線治療専門医科目の講義を行い一部e-learning収載した。2010年8月に銀の道で結ぶ医療人養成コンソーシアムと合同で、「第2回中・四国放射線治療夏季セミナー」の後援を行った。6月に徳島大学にて「医学物理士コース・放射線治療医コース合同セミナー」を行った。11月に徳島大学にて「大学院臨床腫瘍学教育課程セミナーCurrent Status of Radiotherapy in Viet Nam」を行った。2011年3月に高知大学にて「医学物理士養成コース・放射線治療医コースセミナー」を行った。ファカルティ・ディベロップメント（FD）として医学物理士コースと合同で2010年12月に韓国の総合病院サムソンがんセンターで、2011年1月にテキサス大学ＭＤアンダーソンがんセンターでの研修を行った。また2月にカンサスシティ ハートランド・メディカルセンターでの研修を行った。

4. H23年度実績

がんプロ講義として専攻間共通基礎教育課程科目・腫瘍制御学講座共通科目・放射線治療専門医科目の講義を行い一部e-learning収載した。2011年8月に銀の道で結ぶ医療人養成コンソーシアムと合同で、「第3回中・四国放射線治療夏季セミナー」の後援を行った。6月に徳島大学にて「医学物理士コース・放射線治療医コース合同セミナー」を行った。ＦＤとして医学物理士コースと合同で8月にミネソタ大学での研修を行った。

5. 今後の計画

「最新の放射線治療」と「粒子線治療」についてのＷＧ講演会を予定している。

6. 成果

本年度の卒業予定者は1名で2011年8月に放射線治療専門医取得済である。Ｈ24年度の卒業予定者は2名で、うち1名が放射線治療専門医取得予定である。

7. 課題と対応

本コースにおける問題点として、まずは教員の人材不足が挙げられる。本コンソーシアム内の大学病院においては、その大部分で2－3名のスタッフで診療・研究・学部および大学院教育のすべてを担うことが求められている。そのため実習では既存のキャンサーボードの有効活用、講義ではe-learningの活用により対応している。なお当グループ内での放射線療法に専門特化した講座の設置は、香川大および山口大でなされ、教官ポストの増設が行われている。日本医学放射線学会や日本放射線腫瘍学会を通じたコンソーシアム間での情報交換の機会も引き続き適宜設けられている。

現時点でも最大の課題は、やはり学生の確保である。中国・四国地区では、放射線科をめざす新入局者は各大学で年に0～数名程度であり、その中から放射線治療を専攻する人数はさらに少ないものとなる。また放射線治療専門医を目指したいが博士課程進学を希望しない者もいる。そのような学生・前期研修医を専門医に育成していくためには、研修医教育システムをより充実させることが重要であり、本事業を通して習得した教育システムのノウハウが、研修医教育を含めた「がんのプロフェッショナル」養成全般に貢献するものと考える。補助事業終了後も学生・前期研修医へ直接アピールする機会を増やしていき、e-learningをより一層活用した共同教育システムの構築が必要である。

活動報告

岡山 第5回 岡山大学医学物理士インテンシブコース地域連携セミナー

日　時：平成23年8月24日（金）
場　所：公立学校共済組合中国中央病院
　　放射線科放射線治療部門会議室（広島県福山市）
参加者：10名

座長：中国中央病院放射線科　藤井 康志
講演：**「最近のIMRT・IGRT技術の動向について」**
　　岡山大学大学院保健学研究科　笈田 将皇
フリーディスカッション

終了報告

本セミナーでは活発な議論が交わされた。最近のIMRT・IGRT技術に関するテーマで国際学会でのホットトピックについて概説し、参加者と共に議論した。
福山地区のセミナー参加者は安定傾向となってきた。地域セミナーは少人数参加の利点を生かし、個人のモチベーションが向上するように取り組むことが重要である。現状と今後の課題を洗い出し、今後の地域活動における目標設定に反映させて行きたいと考える。

岡山 第10回 岡山大学医学物理士インテンシブコース 放射線治療技術カンファレンス

日　時：平成23年9月5日（月）　19:30～21:00
場　所：岡山大学病院入院棟　11Fカンファレンスルーム（11C）
参加者：12名

座長：岡山大学病院医療技術部　青山 英樹
講演：**「intrafractional set up errorについて」**
　　岡山大学病院医療技術部　大塚 裕太
フリーディスカッション

終了報告

市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生を対象に、本セミナーを開いた。
今回のテーマは放射線治療中の器官移動に関する文献考察を中心に発表がなされ、講師の実際の臨床経験に基づいた測定実例をあげて解説を行った。
質疑応答では、質問とともに基本的な内容から臨床での高度な内容まで幅広く活発な議論が交わされた。

愛媛 第1回 愛媛大学がんプロフェッショナル養成インテンシブコース講習会

第17回愛媛大学腫瘍センター講演会

日　時：平成23年9月9日(金)　17:30～19:00
場　所：愛媛大学 医学部 臨床第3講義室
参加者：40名

司会：愛媛大学医学部附属病院　腫瘍センター長　薬師神芳洋 先生
基調講演
　「ＭＤアンダーソンがんセンター留学研修に学ぶチーム医療」
　　愛媛大学医学部附属病院薬剤部　がん専門薬剤師　河添　仁 先生
特別講演
座長：愛媛大学医学部附属病院　消化管・腫瘍外科　講師　児島　洋 先生
　「大腸がん化学療法の現状と未来～分子標的治療の位置づけ～」
　　防衛医科大学校病院　腫瘍化学療法部　副部長　市川　度 先生

終了報告

はじめに本院の薬剤部　河添仁先生から「ＭＤアンダーソンがんセンター留学研修に学ぶチーム医療」と題し、自身の米国での研修経験から、当病院のがん医療の向かうべき方向性についての意見発表（基調報告）がありました。
続いて児島洋副センター長の司会で特別講演が始まりました。
市川先生はまず、大腸がん治療の現状と、治療選択の中にある問題点をわかりやすく解説されました。更に、この腫瘍を抗がん剤で治療する際、医学的なエビデンスの大切さに加え、患者さんの持つ身体的・社会的背景を見定めた上で、個々の治療方針を立てることの重要性を述べられました。
大腸がんは、肺がんに続き、日本人の罹患するがんの中でも最も頻度の高い悪性腫瘍の一つです。講演会に参加した学生を含む医療関係者約40人は、皆さんメモを取りながら傾聴し、講演会終了後、活発に質疑応答が繰り広げられるなど、大腸がんの診療を経験する医療者にとって貴重な講演会となりました。

徳島 医学物理士コースセミナー

日　時：平成23年9月17日（土）　13:00～17:00
場　所：徳島大学蔵本キャンパス内　青藍講堂
参加者：26名

はじめに：上野　淳二（徳島大学大学院HBS研究部医用情報科学）
■13:00～14:00
司会：生島　仁史（徳島大学大学院HBS研究部医用情報科学）
講演：**「陽子線治療と医学物理士」**
　　西尾　禎治 先生（国立がん研究センター東病院）
■14:15～17:00
シンポジウム：**「放射線治療品質管理部門の現状と今後の展望」**
司会：富永 正英（徳島大学大学院HBS研究部医用情報科学）
シンポジスト：山田　誠一 先生（倉敷中央病院）　橘　昌幸 先生（広島国際大学）
　　佐々木幹治 先生（徳島大学病院）　中島　健雄 先生（広島大学病院）

終了報告

大雨により鉄道、高速道路が止まり、県外からの参加が難しかったためか参加者数が少なかった。
今回はインテンシブコースとしてではなく、出席者には放射線治療品質管理士資格更新のための認定単位「0.5単位」が与えられるセミナーの形で講演やシンポジウムを実施したが、放射線治療品質管理部門については、まだ過渡的な状況であり、明快な目的を示すことが重要であると思われた。
次回以降はインテンシブコースとして概念的な問題だけでなく具体的な事例を盛り込んだ内容として、品質管理士以外の認定単位も得られるようにしたい。

岡山 第3回 がん治療認定医（歯科口腔外科）養成インテンシブコース

日　時：平成23年9月18日（日）　9:00～15:00
場　所：ホテルグランヴィア岡山3階　クリスタル
参加者：59名

プログラム
■座長：佐々木　朗（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 口腔顎顔面外科学分野）
　　宮本　洋二（徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 口腔外科学分野）
　　上山　吉哉（山口大学大学院医学系研究科 歯科口腔外科学講座）
■特別講演１
「顎口腔再建のコツと勘所ー有茎皮弁生着100%を目指してー」
　　横尾　　聡 先生（群馬大学大学院医学系研究科 顎口腔科学分野）
■特別講演2
「口腔癌の放射線治療と放射線被ばく」
　　村上　秀明 先生（大阪大学大学院歯学研究科 歯科放射線学教室）
■教育講演１
「がん患者への退院支援と地域連携」
　　石橋　京子 先生（岡山大学病院 総合患者支援センター 医療ソーシャルワーカー）
■ランチョンセミナー
「経口補水液の有用性」（株）大塚製薬工場学術担当

終了報告

特別講演１は、手術手技の内容で、ビデオを多用しているため多くの参加者から大好評を得ました。また、口腔外科医による顎口腔再建に対する考え方についても話がありました。特別講演2は、放射線療法概論に対する講演でしたが、非常に噛み砕いて話をされ、口腔外科医にとっても非常にわかりやすい内容でした。
教育講演１は、口腔癌患者に対する退院後の在宅医療の問題でした。この分野は、口腔外科医にとってまだ認識が低い分野であり、切実な問題提起となりました。以上のように、講演内容は充実し、終始質疑応答も活発で有意義なセミナーになりました。

岡山 第6回 岡山大学医学部物理士インテンシブコース地域連携セミナー

日　時：平成23年9月23日（金）　13:00～14:00
場　所：岡山大学医学部　臨床講義棟　臨床第一講義室
参加者：35名

司会：岡山大学大学院保健学研究科　笈田 将皇
講演：**「MD Anderson海外研修報告」**
　　徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部　富永 正英
フリーディスカッション

終了報告

昨年度（平成23年1月）に派遣された海外研修の報告を行った。
本セミナーでは、活発な議論が交わされた。講師は、米国で最も放射線治療が充実しているとされるMD Anderson Cancer Centerで感じたことや、体制面での違いについて概説し、参加者とともに議論した。
本セミナーを通じて、参加者の多くは海外の状況に関する理解を深めることができたことから、有意義であったと考える。

岡山 第1回 医学物理士コースFDセミナー岡山大学医学物理士インテンシブコース

日　時：平成23年9月23日（金）　14:00～18:00
場　所：岡山大学医学部　臨床講義棟　臨床第一講義室
参加者：35名

■教育講演
座長：青山 英樹（岡山大学病院医療技術部）
「Siemens治療装置のIGRT　QA/QCについて」
　　太田 誠一（大阪大学医学部附属病院医療技術部）
「Siemens 160MLCの使用経験」
　　隅田 伊織（大阪大学大学院歯学研究科）
■シンポジウム
座長：笈田 将皇（岡山大学大学院保健学研究科）
　　磯辺 智範（筑波大学大学院人間総合科学研究科）
「各コンソーシアムにおける放射線治療専門技術者の人材育成」
シンポジスト：舘岡 邦彦（札幌医科大学医学部放射線医学講座）
　　磯辺 智範（筑波大学大学院人間総合科学研究科）
　　武村 哲浩（金沢大学医薬保健学研究域保健学系）
　　笈田 将皇（岡山大学大学院保健学研究科）
　　高橋　　豊（大阪大学大学院医学研究科）
指定発言：　清川 文秋（倉敷中央病院放射線センター）
　　藤井 康志（中国中央病院放射線科）
　　奥村 拓朗（広島大学病院診療支援部）

総合討論

教育講演では、中四国地区で使用されている放射線治療装置の品質管理に関するテーマとして有意義であった。
シンポジウムでは、今後の放射線治療技術職の人材育成について教育者の立場、臨床家の立場、がんプロ経験者の立場のそれぞれの課題を共有し、今後の目標と対応について議論することができた。
セミナーは滞りなく順調に終えることができた。

岡山 第11回 岡山大学医学部物理士インテンシブコース 放射線治療技術カンファレンス

日　時：平成23年10月4日（火）　19:00～20:30
場　所：岡山大学病院入院棟　11Fカンファレンスルーム（11C）
参加者：11名

座長：岡山大学大学院保健学研究科　笈田 将皇
講演：**「IGRTにおける被ばく線量について」**
　　岡山大学病院医療技術部　杉原 誠治
フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生などを対象に行われた。
今回のテーマは、IGRTにおける被ばく線量に関する文献考察（AAPM TG－76）を中心に発表がなされ、講師の実際の臨床経験に基づいた測定実例をあげて解説を行った。
質疑応答では、質問とともに基本的な内容から臨床での高度な内容まで幅広く活発な議論が交わされた。

山口 第3回 インテンシブコースセミナー

日　時：平成23年10月7日（金）　17:30～19:00
場　所：山口大学医学部　霜仁会館3階　多目的室
参加者：29名

■講演
「がん患者とQOL」
山本　知美 先生
（山口県立総合医療センター　がん看護専門看護師）

終了報告

本セミナーでは、「がん患者とQOL」と題して、山口県立総合医療センター 山本 知美 看護師（がん看護専門看護師）にご講演いただいた。
前半は、看護とは何か、QOLとは何か、看護の概念的な内容であった。後半は、患者のQOL維持・向上のためのアセスメントや 技術についての内容であった。
QOL向上のために必要な技術については、観察、コミュニケーション、症状緩和技術、生活援助技術及び医療チーム連携の技術が大切であると話され、現場で経験された取り組み、気づき、効果など具体的なケア方法や実践方法を事例を通してわかりやすく説明された。
最後に、患者・家族のQOLの維持・向上には、患者への温かい関心と専門的知識・技術を併せ持つことが大切であり、より高度な看護実践につながると締めくくられた。

岡山 FDワークショップ

日　時：平成23年10月23日（日）　13:30～16:00
場　所：ダイワロイネットホテル岡山駅前　会議室

■報告
(1)化学療法研修
報告者：岡山大学病院看護部　西本 仁美
座　長：愛媛大学医学部附属病院腫瘍センター　薬師神 芳洋

(2)医学物理士研修
報告者：岡山大学大学院保健学研究科保健学専攻放射線技術科学分野　笈田 将皇
座　長：岡山大学大学院保健学研究科放射線技術科学分野　加藤 博和

(3)緩和ケア研修
報告者：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 緩和医療学講座　松岡 順治
座　長：香川大学医学部附属病院麻酔・ペインクリニック科　中條 浩介

■全体討論
「FDの実質化に向けて」
司会：川崎医科大学呼吸器外科学　中田 昌男

岡山 第12回 岡山大学医学物理士インテンシブコース 放射線治療技術カンファレンス

日　時：平成23年10月18日（火）　19:00～20:30
場　所：岡山大学病院入院棟　11Fカンファレンスルーム（11G）
参加者：8名

座長：岡山大学病院医療技術部　青山 英樹
講演：**「IMRT 物理・技術的ガイドラインの詳細　－治療装置③－」**
岡山大学大学院保健学研究科　笈田 将皇
フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に開かれた。
今回のテーマはIMRT　物理・技術的ガイドラインの詳細に関する文献考察を行い、講師の実際の臨床経験に基づいた測定実例をあげて解説を行った。
質疑応答では、質問とともに基本的な内容から臨床での高度な内容まで幅広く活発な議論が交わされた。セミナー参加を通じてスキルアップやモチベーションを高められることが可能であり、草の根活動としてのセミナー企画は重要である。小規模なセミナーは、今後どう結果が得られるか未知であるが、新人・若手向けにちょうど良いように思われる。

8大学 第1回 がん薬物療法専門医コースWG

日　時：平成23年１０月27日(木)　18:30～
場　所：名古屋マリオットアソシアホテル17階　楠

議事内容
1. 代表挨拶
2. 各大学の実習状況について
3. 外部評価委員会（1/20）に向けての準備状況
4. 次年度以降の取り組みについて
5. その他

山口 第4回 インテンシブコースセミナー

日　時:平成23年11月4日(金)　17:30～19:00
場　所:山口大学医学部　霜仁会館3階　多目的室
参加者:33名

■講演:**「がんサバイバーとして10年**
～私の生き方、そして市民活動を通しての学び～」
前川　育 先生(NPO法人周南いのちを考える会代表)

終了報告

本セミナーではNPO法人 周南いのちを考える会 前川 育 代表にご講演いただいた。前川代表は、息子さん(当時6歳)をがんで亡くされ、ご自身も3度のがん経験者である。2001年には「NPO法人　周南いのちを考える会」を設立され、現在代表をされている。

講演では、これまでの活動の中で、遺族は亡くなった家族に対して喪失感が残り、医療者のかかわりによっては喪失感とともに後悔の念が残ると話された。また、「がん患者の家族」「がん経験者」の立場から病院(医療者)とのかかわりあいについて、事例をもとに具体的に説明された。さらに、会の活動を通じて、患者の声を紹介され、色々な体験が現在の活動基盤になっていること、必要とされた時にお手伝いがしたいことを話された。

最後に医療者と患者・家族とのかかわりにおいて信頼できる医療者の存在が重要であり、関係が良い場合、入院等でつらい経験があっても生きる希望を持つようになり、残された家族は早く元気になれることを強調された。

高知 在宅がん医療講演会

日　時:平成23年11月4日(金)　18:00～
場　所:高知大学医学部　臨床講義棟　第1講義室
参加者:44名

挨拶:高知大学医学部附属病院 がん治療センター部長　小林　道也
第1部:**「在宅医療の現状と課題」**
あおぞら診療所高知潮江 副院長　松本　務 先生
第2部:**「医療を生活資源に　～愛媛大学病院の活動を通じて～」**
愛媛大学医学部附属病院 医療福祉支援センター長　櫃本　真聿 先生

終了報告

大学病院などに勤務している医療関係者の方に、さらに在宅がん医療について理解を深めていただくために、あおぞら診療所高知潮江　松本務先生による「在宅医療の現状と課題」、愛媛大学　櫃本真聿先生による「医療を生活資源に～愛媛大学病院の活動を通じて～」と題して講演会を開催した。

アンケートより、全体の印象は「大変参考になった」76%、「概ね参考になった」24%と、良好な評価を得た。参加者が44名であった。今後、県内機関等への広報を工夫したい。

参加者の声

「医療とは何か」原点を今更ながら振り返る機会になった。いかに医療に対して固定観念にとらえられていたのかに気付いた。両先生に力をもらった。(看護師)

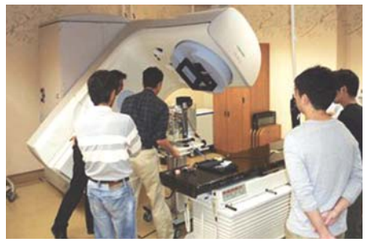
大変刺激的で楽しい内容であった。(医師)

在宅医療の重要性を大きく感じました。また「急性期病院が地域資源に！」という考えに非常に共感を覚えました。在宅医療分野は、これからの地位づくりの核になる部分だと思っている。(学生)

在宅医療について学ぶ機会があまりなかったので、とても勉強になった。患者さんとの関わり方や、自分や自分の周りの人の最期についてもう一度考えてみようと思った。(学生)

岡山 第2回 医学物理士コース実習型セミナー 岡山大学医学物理士インテンシブコース

日　時:平成23年11月6日(日)　9:00～12:00
場　所:岡山大学病院放射線治療室
参加者:10名



実習型セミナー:**「高エネルギー電子線小照射野の線量計測」**
宇野　弘文 (岡山大学病院医療技術部)
笈田　将皇 (岡山大学大学院保健学研究科)

9:00～ 9:30　ガイダンス・概要説明
9:30～11:00　線量計測
11:00～11:30　データ解析
11:30～12:00　総合討論・質疑応答

終了報告

本年第2回目の実習型セミナーとして、岡山市内の放射線治療施設の社会人を対象とした実習型セミナーを開催した。

実習を伴うセミナーは昨年から行っているが、本テーマは初めての企画である。

応用技術に関するテーマとしていたこともあり、経験の浅い新人教育だけでなく経験豊富な社会人に対する再教育の場としても本セミナーが機能したことは良い点であった。今後も講義を交えた実習として行うことを目標とし、様々なテーマを設定して活動していきたい。

岡山 第1回 腫瘍外科専門医コースWG会議

日　時:平成23年11月6日(日)　12:00～13:00
場　所:岡山大学医学部　管理棟3階　中会議室

議事内容
1.各大学の養成・実績人数等状況について
2.外部評価委員会(1/20)に向けての取り組み
・FD研修内容と取り組み
・大学の特色ある活動内容
・スキルアップセミナー等参加
・腫瘍外科手術映像のHP掲載
・治験プロトコール
3.来季への取り組みについて
4.その他

岡山 第2回 eラーニングWG会議

日時：平成23年11月6日（日）　13:00～14:00
場所：岡山大学医学部　管理棟3階　中会議室

議事内容
1.中四国がんプロeラーニングシステムの現状報告
2.e-learningクラウドシステム（PJ2）の現状報告
3.外部評価委員会（1/20）に向けての取り組み
・コンテンツ数
・アクセス数
4.来季への取り組みについて
・e-learningクラウドシステム（PJ2）への移行について
・来年度予算について
・中四国がんプロeラーニングシステムの維持について
5.その他

愛媛 第2回 愛媛大学がんプロフェッショナル養成インテンシブコース講習会

第18回愛媛大学腫瘍センター講演会

日　時：平成23年11月11日（金）　17:30～19:00
場　所：愛媛大学 医学部 臨床第3講義室
参加者：25名

司会：愛媛大学医学部附属病院　腫瘍センター
センター長　薬師神　芳洋 先生
■特別講演
座長：愛媛大学大学院医学系研究科
生殖病態外科学分野　教授　那波　明宏 先生
「繊毛癌の診断と治療　－化学療法を中心に－」
和歌山県立医科大学　産婦人科学教室　教授　井箟　一彦 先生

終了報告

和歌山県立医科大学 産科婦人科教室教授 井箟一彦先生を講師に迎え、「繊毛癌の診断と治療－化学療法を中心に－」と題し、講演会が開催されました。
繊毛癌は比較的稀な婦人科腫瘍ではあるものの、転移巣ばかりに気を取られると、診断に時間を要し予後不良となります。井箟先生は、この疾患を認知し、hCG検査の有用性を認識することが重要であることを述べられました。続いてエトポシド、メントレキセート、アクチノマイシンDという抗がん剤を用いた化学療法の有用性を述べられ、転移があっても完治が望める本疾患の経過や、現在の標準と言える治療法を解説されました。また最後には、ご自身が経験された患者さんのケース・プレゼンテーションから、治療成果の向上には、多職種が関与する集学的治療が重要であることを述べられました。
会場の皆さんはメモを取りながら傾聴し、講演会終了後、座長である愛媛大学大学院医学系研究科生殖病態外科学教授　那波明宏先生や、会場の医療者を交え、活発な意見交換が行われました。当日はがんの治療を行う医療者にとって貴重な講演となりました。

岡山 第13回 岡山大学医学物理士インテンシブコース放射線治療技術カンファレンス

日　時：平成23年11月15日（火）　19:00～20:30
場　所：岡山大学病院入院棟　11Fカンファレンスルーム（11H）
参加者：11名

座長：岡山大学病院医療技術部　青山　英樹
講演：**「IGRTにおけるkVとCBCTの精度比較」**
岡山中央病院放射線科　加茂前　健
フリーディスカッション

終了報告

本セミナーは、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に開催しました。IGRTにおける画像照合精度の詳細に関する文献調査を行い、講師の実際の臨床経験に基づいた測定実例をあげて解説を行いました。質疑応答では、質問とともに基本的な内容から臨床での高度な内容まで幅広く活発な議論が交わされました。今後、県内においてもIGRTが普及する見込みであり、多くの参加者にとって有益な情報が得られたと思われます。

山口 第5回 インテンシブコースセミナー

日　時：平成23年11月25日（金）　17:30～19:00
場　所：山口大学医学部　霜仁会館３階　多目的室
参加者：34名

テーマ：『がん患者の家族』
講師
・松永　理子（山口大学医学部附属病院看護部）
・大上 芙美代（山口大学医学部附属病院看護部）

終了報告

本セミナーでは「がん患者の家族」と題して、２名の看護師にご講演いただいた。
まず、家族とは、がんサバイバーとは、家族看護とは何か、という概念的な内容から始まり、がん患者や家族の心理、それに対する援助、言葉がけ等について講義があった。
後半は事例を通じて入院から退院までの家族の思いや看護師の思い、家族への働きかけ、家族の言葉などを具体的に述べられた。また、看護部内でも事例を通じたカンファレンスが行われ、「がん患者と家族のかかわり」における看護師間の情報共有を行っている報告があった。
最後に、家族の意志を尊重すること、医療者の価値観を押し付けないこと、医療者間の情報共有が大切であり、意識確認することが重要であると締めくくられた。

Participation university

参加大学

Consortium　Member

川崎医科大学
Kawasaki Medical School

腫瘍内科系専門医養成コース
腫瘍外科系専門医養成コース
●学務課教務係
TEL(086)464-1012

岡山大学
Okayama University

腫瘍内科系専門医養成コース・腫瘍外科系専門医養成コース
放射線治療専門医養成コース・緩和医療専門医養成コース
●医歯薬学総合研究科等学務課大学院係
TEL(086)235-7986

がん専門薬剤師養成コース
●医歯薬学総合研究科等薬学系事務室教務学生係
TEL(086)251-7923

CNS(がん専門看護師)コース
医学物理士・放射線治療品質管理士養成コース
●医歯薬学総合研究科等学務課教務第二係
TEL(086)235-7984

愛媛大学
Ehime University

腫瘍内科系専門医養成コース
腫瘍外科系専門医養成コース
放射線腫瘍医コース
●医学部学務室大学院チーム
TEL(089)960-5868

香川大学
Kagawa University

腫瘍内科系専門医養成コース
緩和医療専門医養成コース
腫瘍外科系専門医養成コース
●医学部総務課学務室大学院入学試験係
TEL(087)891-2074

山口大学
Yamaguchi University

臨床腫瘍専門医コース
放射線治療専門医コース
腫瘍外科専門医コース
●医学部学務課大学院教務係
TEL(0836)22-2058

徳島大学
Tokushima University

がん薬物療法専門医コース・放射線治療専門医コース
緩和療法医コース・腫瘍外科系専門医コース
●医学・歯学・薬学部等事務部学務課大学院係
TEL(088)633-9649

がん専門薬剤師コース
●医学・歯学・薬学部等事務部学務課第三教務係
TEL(088)633-7247

がん専門看護師コース・医学物理士コース
●医学・歯学・薬学部等事務部学務課第四教務係
TEL(088)633-9009

高知県立大学
University of Kochi

※2011年4月より「高知女子大学」から
校名を変更しました。

CNS(がん看護専門看護師)コース
●学生課大学院担当
TEL(088)847-8580

高知大学
Kochi University

臨床腫瘍医内科系コース
放射線治療専門医コース
臨床腫瘍医外科系コース
がん専門薬剤師養成コース
医学物理士養成コース
●医学部岡豊学務課大学院教育担当
TEL(088)880-2263

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム　Vol.32

□ 編集兼発行者
中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム事務局
TEL 086－235－7023　info@chushi.ganpro.jp

□ 印刷所
有限会社 ファーストプラン